

自己点検・評価報告書

－2024年度－

文化学園大学

文化学園大学では、教育研究の内部質保証のために、2006 年度から毎年、全学的な自己点検・評価活動を実施しています。本学の自己点検・評価活動は、『文化学園大学自己点検・評価規程』に則り、文化学園大学将来構想委員会が自己点検・評価の基本方針と実施基準等を決定し、全学自己点検・評価委員会が自己点検・評価を実施し、報告書案を作成する体制により実施しています。本報告書には、本学の教育研究等にかかわる自己点検・評価検討機関ごとに、「本年度の課題」「取組の結果と点検・評価」「次年度への課題」のほか、エビデンスとして「会議等の開催記録」が掲載されています。2024 年度は、学内の 39 検討機関、学園本部の 5 検討機関における結果をとりまとめました。

また、報告書の執筆に際しての評価観点は、公益財団法人日本高等教育評価機構（以下「評価機構」）による評価基準を基本としています（以下の基準 1～6）。このほか、本学が個性・特色として重視してきた独自基準には、「学外連携教育」があります（以下の基準 A）。本報告書には、これらの評価基準に沿って 44 検討機関が自己点検・評価した結果がまとめられています（冒頭に検討機関と基準及び基準項目との対応表を掲載）。

- 基準 1. 使命・目的等（使命・目的、教育目的）
- 基準 2. 学生（学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応）
- 基準 3. 教育課程（卒業認定、教育課程、学修成果）
- 基準 4. 教員・職員（教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援）
- 基準 5. 経営・管理と財務（経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計）
- 基準 6. 内部質保証（組織体制、自己点検・評価、PDCA サイクル）
- 基準 A. 学外連携教育

大学教育の内部質保証は、各検討組織における課題及び結果の記述に留まることなく、結果に対する客観的な点検・評価及び改善の方針が明確化され、PDCA サイクルが有効に機能することにより、はじめて継続的なものとなります。本報告書を学内の各組織における改善の指針として有効に活用していただければ幸いです。

なお、文化学園大学は、2024 年度に評価機構による大学機関別認証評価を受審いたしました。その結果、評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定されました。評価機構に提出した「自己点検評価書」は本学ホームページ及び評価機構のホームページにて、また、評価結果が記載された「評価報告書」は評価機構のホームページにて公表されています。

全学自己点検・評価委員会では、本学の教育の内部質保証を推進するために、今後とも継続して全学的かつ自律的な自己点検・評価活動に取り組んでまいりたいと考えております。引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本報告書の作成にあたり、ご尽力いただきました関係各位に深謝申し上げます。

2025 年 8 月 1 日

全学自己点検・評価委員会
委員長 渡邊秀俊

本学の自己点検・評価報告書 一覧

1. 『文化女子大学の現状と課題 自己点検・評価報告書 平成13年度(2001)』
2. 『文化女子大学 自己評価報告書 平成17年度』
3. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成18年度—』
4. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成19年度—』
5. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成20年度—』
6. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成21年度—』
7. 『文化女子大学短期大学部 自己評価報告書 平成22年度』
8. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成22年度—』
9. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成23年度—』
10. 『文化学園大学 自己点検評価書 平成24年度』
11. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成24年度—』
12. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成25年度—』
13. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成26年度—』
14. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成27年度—』
15. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成28年度—』
16. 『文化学園大学 自己点検評価書 平成29年度』
17. 『文化学園大学短期大学部 自己点検評価書 平成29年度』
18. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成29年度—』
19. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—2018年度—』
20. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—2019年度—』
21. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—2020年度—』
22. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—2021年度—』
23. 『文化学園大学 自己点検・評価報告書—2022年度—』
24. 『文化学園大学 自己点検・評価報告書—2023年度—』
25. 『文化学園大学 自己点検評価書 令和6(2024)年度』

検討機関名	基準1 使命・目的等		基準2 学生						基準3 教育課程			基準4 教員・職員				基準5 経営・管理と財務					基準6 内部質保証			基準A 学外連携教育	特記事項		
	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	6-1	6-2	6-3	A-1	1	2	
	使命・目的及び教育目的の設定	使命・目的及び教育目的の反映	学生の受入れ	学修支援	キャリア支援	学生サービス	学修環境の整備	学生の意見・要望への対応	単位認定、卒業認定、修了認定	教育課程及び教授方法	学修成果の点検・評価	教学マネジメントの機能性	教員の配置・職能開発等	職員の研修	研究支援	経営の規律と誠実性	理事会の機能	管理運営の円滑化と相互チェック	財政基盤と収支	会計	内部質保証の組織体制	内部質保証のための自己点検・評価	内部質保証の機能性	産学連携・地域連携教育	大学の人的・物的資源の社会への還元	国際交流	
協議・審議機関	大 学 運 営 会 議																										
	持 来 構 想 委 員 会																										
	全 学 自 己 点 検 ・ 評 価 委 員 会																										
	全 学 F D 委 員 会																										
協議機関	服 装 学 部 協 議 会																										
	造 形 学 部 協 議 会																										
	国 際 文 化 学 部 協 議 会																										
	学 部 共 通 科 目 協 議 会																										
審議機関	大 学 院																										
	生 活 環 境 学 研 究 科 委 員 会																										
	国 際 文 化 研 究 科 委 員 会																										
	学 部																										
	服 装 学 部 教 授 会																										
	造 形 学 部 教 授 会																										
	国 際 文 化 学 部 教 授 会																										
	常 置																										
	教 務 委 員 会																										
	学 生 支 援 委 員 会																										
	入 試 対 策 委 員 会																										
	就 職 委 員 会																										
	特 別																										
	研 究 委 員 会																										
	紀 要 編 集 委 員 会																										
	研 究 倫 理 委 員 会																										
	研 究 活 動 不 正 防 止 委 員 会																										
	公 開 講 座 実 行 委 員 会																										
	障 が い 学 生 支 援 委 員 会																										
	国 際 交 流 委 員 会																										
専 門																											
教 職 課 程 専 門 委 員 会																											
学 芸 員 課 程 専 門 委 員 会																											
司 書 課 程 専 門 委 員 会																											
衣 料 管 理 士 課 程 専 門 委 員 会																											
建 築 ・ イ ン テ リ ア 系 資 格 専 門 委 員 会																											
文 化 ・ 語 学 研 修 専 門 委 員 会																											
附 属 機 関	文 化 学 園 大 学 図 書 館																										
	文 化 学 園 服 飾 博 物 館																										
	文 化 学 園 フ ャ シ ョ ン リ ソ ー ス セ ン タ ー																										
	文 化 学 園 国 際 交 流 セ ン タ ー																										
	文 化 学 園 知 財 セ ン タ ー																										
	U S R 推 進 室																										
共同 研究拠点	文 化 フ ァ ャ シ ョ ン 研 究 機 構																										
	文 化 ・ 衣 環 境 学 研 究 所																										
	文 化 ・ 住 環 境 学 研 究 所																										
	和 装 文 化 研 究 所																										
附 属 研究所	文 化 ・ フ ァ ャ シ ョ ン テ キ ス タ イ ル 研 究 所																										
	教 務 部																										
	学 事 課																										
	研 究 協 力 室																										
	学 生 課																										
事 務 局	入 試 広 報 課																										
	全 学 S D 委 員 会																										
	学 園 本 部 等																										
総 務 部																											
施 設 部																											
経 理 部																											
I T 委 員 会																											
ハ ラ ス メ ン ト 防 止 委 員 会																											

委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連

検討機関名	担当領域	内容	対応基準
文化学園大学 運営委員会	文化学園大学の諸事項を協議し、大学全体の円滑な運営を図る	教育課程の編成、学長からの諮問された事項について協議、意見を具申	1-1. 1-2. 4-1. 6-1. 6-2. 6-3
文化学園大学 将来構想委員会	文化学園大学の将来構想を検討	短・中・長期計画の企画立案、本学の状況について本学が行う評価に関する事項	1-1. 1-2. 4-1. 6-1. 6-2. 6-3
全学自己点検・評価委員会	自己点検・評価の実施	自己点検・評価の基本方針に基づき、報告書案を作成	1-1. 1-2. 6-1. 6-2. 6-3
全学 F D 委員会	教員の教育研究活動向上及び能力開発を検討実施	ファカルティ・ディベロップメントの方策に関する事項、教員の研修計画の立案並びに実施に関する事項、学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項、その他ファカルティ・ディベロップメントに関する事項	1-1. 1-2. 2-2. 3-3. 4-2. 6-1. 6-2. 6-3
教務委員会	カリキュラムの編成、実施及び改善に関する事項並びにその他教務に関する事項	カリキュラムの全体編成及び卒業認定単位に関する事項、カリキュラムの開講及び科目名に関する事項、カリキュラムの種類・単位数・年次配当等に関する事項、時間割に関する事項、委員会等の規程に関する事項、科目履修、試験、編入、転学、その他教務上の事項、他大学等の既修得単位の認定に関する事項	2-2. 2-5. 2-6. 3-1. 3-2. 3-3. 4-2
学生支援委員会	学生支援の円滑化を図る	学生生活支援に関する事項、学生行事に関する事項、外国人留学生の教科指導に関する事項、外国人留学生と日本人学生・教員とのコミュニケーションの推進及び親睦に関する事項、学生会並びに学生会所属のクラブ・同好会・愛好会に関する事項	2-4. 2-5. 2-6.
入試対策委員会	本学入学生の募集並びに入学試験に関する諸事項の検討と推進を図る	学生募集並びに入学試験実施に関する諸事項	2-1
就職委員会	学生の就職に関する諸問題の検討と推進を図る	就職指導に関する事項、就職先企業の調査、研究及び開拓に関する事項、就職のための学内選考に関する事項、学生支援・面接に関する事項、インターンシップに関する事項	2-3. 3-3
研究委員会	教員の研究に資する	全学的な研究体制、研究組織に関する事項、学術研究振興資金への申請に関する学内選抜、研究費、研究図書費、その他研究助成に関する事項、学内外の共同研究に関する事項、学内外の研究機関との交流に関する事項、研究成果の発表に関する事項	4-2. 4-4. 特記事項 1.
紀要編集委員会	文化学園大学紀要の編集刊行に関するものを審議・検討	紀要の編集刊行に関する事項 投稿原稿の審査者・助言者を選び、紀要掲載の適否の審査を依頼	4-4
研究倫理委員会	研究者が、人間を直接対象とした研究のうち、倫理上の問題が生じる恐れのある研究を行う場合の留意事項及び手続き等を定め、研究対象者及びその関係者の人権を擁護する	研究実施計画の審査、研究の検証、その他研究上の倫理に関する事項	4-4
研究活動不正防止委員会	研究活動について、不正行為の防止及び不正行為に起因する問題が生じた場合に適切かつ迅速に対処する	競争的研究費及びその他の研究費に係る不正使用防止計画を策定、不正使用計画の実施状況を調査、必要に応じて改善を指示	4-2. 4-4
公開講座実行委員会	研究上の成果とリソースを広く社会に開放し、一般市民の教養の増進と専門知識の修得に資する	公開講座開催に関する事項	A-3
障がい学生支援委員会	障害のある学生がその修学について不利益な扱いを受けず、適切な支援を受けられる体制づくりの推進を図る	修学等支援方針にかかる計画の策定にあたっての指導・助言、障害のある学生及び受験者の同定、少額学生修学支援（入学試験における支援を含む）に関する指導・助言	2-4. 2-5. 2-6
国際交流委員会	学生の海外留学及び国外大学との連携について審議・検討	学生の海外留学、国外大学との単位互換及び国外大学の学生の研修受入れに関する事項	2-2.
教職課程専門委員会	教育免許状の取得達成に寄与する	教育課程の全体計画、カリキュラムの編成、その履修方法並びに教育実習の年間計画等を策定し、かつ各部会の連絡調整	3-1. 3-2. 3-3
学芸員課程専門委員会	学芸員資格の取得達成に寄与する	学芸員課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法等、学芸員資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
司書課程専門委員会	図書館司書資格の取得達成に寄与する	司書課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法等、司書資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
衣料管理士課程専門委員会	衣料管理士免許状の取得に関する事項	衣料管理士専門課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法、テキストアドバイザー実習関係等、衣料管理士資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
建築・インテリア系 資格専門委員会	建築インテリア系資格の取得達成に寄与する	建築・インテリア系受験資格に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法、建築・インテリア系受験資格の認定に関する事項、資格取得の支援方法に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
文化・語学研修専門委員会	文化・語学研修に関する事項	文化・語学研修の教育方法に関する事項、文化・語学研修の学生指導に関する事項	3-1. 3-2. 3-3.
全学 S D 委員会	職員の役割の意識向上及び能力開発を検討実施	スタッフ・ディベロップメントの方策に関する事項、職員の研修計画の立案並びに実施に関する事項、その他スタッフ・ディベロップメントに関する事項	4-3. 6-1. 6-2. 6-3

目 次

『2024年度自己点検・評価報告書』作成にあたって	3
自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応	5
委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連	6
協議・審議機関	
大学運営会議・将来構想委員会	10
全学自己点検・評価委員会	12
全学FD委員会	13
協議機関	
服装学部協議会	16
造形学部協議会	18
国際文化学部協議会	20
学部共通科目協議会	22
審議機関	
大学院研究科委員会	
生活環境学研究科委員会	26
国際文化研究科委員会	27
教授会	
文化学園大学教授会	29
常置委員会	
教務委員会	30
学生支援委員会	32
入試対策委員会	34
就職委員会	36
特別委員会	
研究委員会	38
紀要編集委員会	40
研究倫理委員会	42
研究活動不正防止委員会	43
公開講座実行委員会	45
障がい学生支援委員会	47
国際交流委員会	49
専門委員会	
教職課程専門委員会	50
学芸員課程専門委員会	52
司書課程専門委員会	53
衣料管理士課程専門委員会	55
建築・インテリア系資格専門委員会	57
文化・語学研修専門委員会	59
附属機関等	
文化学園大学図書館	62
文化学園服飾博物館	64
文化学園ファッションリソースセンター	65
文化学園国際交流センター	66
文化学園知財センター	67
USR推進室	69

共同研究拠点	
文化ファッション研究機構	72
附属研究所	
文化・衣環境学研究所	76
文化・住環境学研究所	78
和装文化研究所	80
文化・ファッションテキスタイル研究所	81
事務局	
全学 SD 委員会	84
学園本部	
学園本部総務部	86
学園本部施設部	87
学園本部経理部	88
IT 委員会	89
ハラスメント防止委員会	90
附：委員会委員一覧表	附 2
学部・学科編成	附 4
入学定員・収容定員・在籍学生数	附 5
全学自己点検・評価委員会委員名簿	附 6

協議・審議機関

■検討組織名：文化学園大学 大学運営会議・将来構想委員会

報告者：円谷 葉子

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<p>1. 現状の入学定員 (850 人) を維持するための方策を検討する。 2. 引き続き、今後の学部学科の構成等について検討する。</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 入学定員を適正なものとするため、総定員数 (850 人) は変更せず、一部学科の入学定員の変更を行う。2026 年度入学生から適用するため、2025 年度に文部科学省へ関係書類を提出する。 <入学定員を変更する学科・変更する入学定員数> 服装学部ファッション社会学科 140 人 → 120 人 (-20) 造形学部デザイン・造形学科 125 人 → 145 人 (+20) 2. 服装学部ファッションクリエイション学科では、2025 年度入学生から現行のフィールド名を変更する (名称については「会議等の開催記録」参照)。</p>
<p>次年度への 課 題 (2025 年度)</p>	<p>1. 現状の入学定員 (850 人) を維持するための方策を検討する。 2. 2024 年度に受審した大学機関別認証評価の「評価報告書」に基づき、教育・規程等の見直しに取り組む。</p>

■検討機関名：文化学園大学 大学運営会議・将来構想委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年5月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新年度における学生の様子について各学科主任教授が報告した。また、支援を必要とする学生への配慮について、合理的配慮の仕組み作りを、学部長会を中心に議論することとした。 2. 2023年度事業報告について、事務局長から報告。 3. 文化学園大学中期計画（2023～2027年度）2023年度結果について、事務局長から報告。 4. 2023年度文化学園大学ガバナンス・コード適合（遵守）状況について、事務局長から報告。 5. その他 2023年度文化学園の決算について学長から報告。
2024年10月29日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学機関別認証評価受審について、認証評価推進委員会委員長から11月に本学で行う実地調査に関して説明した。 2. 2024年度自己点検・評価の方針について、「文化学園大学自己点検・評価規程」に基づき、全学自己点検・評価委員会委員長による2024年度の本学の自己点検・評価の基本方針及び実施基準等を確認し、決定した。 3. 服装学部ファッションクリエイション学科のフィールド名変更については3月の本会議で再検討となっていたが、決定したことを服装学部長から報告。 2025年度入学生が3年生になる2027年度から適用する。 アパレルフィールド → テクニックフィールド プロデュースフィールド → デザインフィールド アドバンスフィールド → サイエンスフィールド 4. 現学長の任期が2025年6月末までであり、次期学長候補者を選考するための「学長選考委員会」を組織することについて事務局長が説明し、承認された。 5. その他 <ul style="list-style-type: none"> ○私立学校法改正に伴う寄附行為改正について学長から説明、本学の対応について報告。 ○5月の本会議で報告があった支援が必要な学生の対応については、学部長会でも議論し、学生課が他大学の支援の様子等を調べている。また、大学障がい学生支援委員会でも継続して検討している。2月の本会議で進捗状況を報告する予定であることを事務局長から報告。
2025年2月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育のポリシー（3つのポリシー）について、事務局長から配付資料について説明。 2. 2025年度事業計画はすでに本部総務部に提出し、2月25日理事会・評議員会で審議予定であることを事務局長から報告。 3. その他 <ul style="list-style-type: none"> ○支援が必要な学生の対応については、2月教授会で大学障がい学生支援委員会委員長から報告があったため、本日は進捗状況等に関する報告はないことを事務局長から説明。 ○実習室の開放について教員から報告があった。学部学科の事情もあるため、今後は教育担当副学長を中心に検討いただく。 ○卒業研究の提出を控えた12月以降の土曜日は、オープンメディアルームを開室してほしいとの要望が教員からあった。事務局から同ルーム室長へ依頼する。 ○学園内4校の相互交流（進学・編入学等）について学長よりご意見があった。他に、優秀な大学院生を本学教員として積極的に採用すること、修士課程1年での修了について学長から研究科長に検討依頼、学生間の交流について各学科主任教授より現状に関する報告、教職課程履修者の就職について等に関するご意見等あり。
2025年3月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和6年度 大学機関別認証評価の評価結果について学長から「適合」であったことの報告と、認証評価推進委員会委員長から、本学にいただいた参考意見や改善を要する点について説明。 2. 教育のポリシー（3つのポリシー）について事務局長から説明、2025年度版として承認された。 3. 2025年度事業計画について、大学の事業計画が理事会と評議員会に承認されたことを事務局長から報告。 4. 実習室・演習室の開放について、教育担当副学長から2025年度に調査することが報告された。 5. 学修成果の測定について、教育担当副学長から各学部学科のラーニング・ポートフォリオの取り組みについて、今後実態を把握することの報告。 6. その他として、事務局長から日本私立大学協会 私立大学ガバナンス・コード<第2.0版>に関する報告、教員から「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」のフィードバックについて等のご意見があった。

■検討組織名：全学自己点検・評価委員会

報告者：渡邊 秀俊

本年度の課題 (2024年度)	<ol style="list-style-type: none"> 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2023年度-』のまとめと公表 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2024年度-』の見直しと作成
取組の結果と 点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> 文化学園大学の44の検討機関、文化学園本部の5検討機関の計49の検討機関による自己点検・評価を実施し、その結果を『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2023年度-』にまとめた。報告書は学園運営会議での確認を経た後に、2024年8月1日付けで本学ホームページにおいて外部に公表した。 以上のことから、『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2023年度-』のまとめと公表については、滞りなく実施されたと評価できる。 文化学園内の自己点検・評価の検討機関の見直しと、提出された原稿を全学自己点検・評価委員会として確認・精査する組織体制の見直しを行った。あわせて、自己点検・評価報告書の様式、執筆要領及びスケジュール等を再検討した。原稿提出締め切りは2025年4月4日とし、2025年1月の教授会において執筆を依頼した。 以上のことから、『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2024年度-』の見直しと作成については、PDCAサイクルのもとに適切に実施されたと評価できる。
次年度への 課題 (2025年度)	<ol style="list-style-type: none"> 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2024年度-』のまとめと公表 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2025年度-』の見直しと作成

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月30日	<ol style="list-style-type: none"> 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2023年度-』の提出原稿の確認 全学自己点検・評価委員会の委員変更について（各学科から委員1人、新書記の選出） その他（今後のスケジュール、第4期大学機関別認証評価の新しい評価システムについて）
2024年10月1日	<ol style="list-style-type: none"> 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2023年度-』の振り返り 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2024年度-』の作成方法について 2024年度大学機関別認証評価の受審について その他（文化学園大学将来構想委員会と全学自己点検・評価委員会の位置付けの確認）
2024年11月27日	<ol style="list-style-type: none"> 2024年度大学機関別認証評価の受審について 『文化学園大学 自己点検・評価報告書-2024年度-』の作成について（執筆要領及びスケジュールの確認）

<p>本年度の課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度「全学FD・SD研修会」、「秋の分科会」及び「FD教職員による授業見学ウィーク」の実施 2. 2025年度「全学FD・SD研修会」、「分科会」、「FD教職員による授業見学ウィーク」等の企画立案 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」実施と実施方法に関する改善を行う。 4. 学生代表との対話を実施する。 5. 他大学・団体等の「FD活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加を引き続き行う。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度「全学FD・SD研修会」は、「AIの基礎と活用:最新の生成AI事例と本学の対応」をテーマとした講演を行い、現在の授業運営や学生指導から感じる問題点等をテーマに自由に各グループでディスカッションする分科会を行った。「FD教職員による授業見学ウィーク」については、見学方法や実施時期などを見直す検討を行ったが、以前と同様に見学できる授業数が少ない場合にはFDとしての成果が期待できないことから、今後は教職員による授業見学は行わず、委員会で別の方法を検討していく事とした。 2. 2025年度「全学FD・SD研修会」の企画については、支援を必要とする学生に対応する大学の体制作りに関連して、大学における合理的配慮や支援の実態に詳しい教員による講演会を行う事に決定した。 3. 2018年度に発足した「授業アンケート小委員会」で検討を重ねて改訂に至り、実施をしている「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」によるアンケートを、2024年度前期・後期に実施した。前年度同様に2024年度も本アンケートを利用した授業改善の依頼を教職員に対して行った。 4. 学生代表と全学FD委員会メンバーによる対話を行い、各学部・学科から1人の学生代表からの意見や要望についてFD委員が聞き取りをし、その場で対応できる内容についてはアドバイスなどを行った。 5. 他大学、団体等の活動に関する継続した情報収集については、委員長が他大学のホームページに掲載されているFD・SD活動に関する記事の収集、また、他大学でのFD・SD活動の取り組みをまとめたパンフレット等を収集した。
<p>次年度への 課題 (2025年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年度「全学FD・SD研修会」、「秋の分科会」の実施 2. 2025年度「全学FD・SD研修会」、「分科会」等の企画立案 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」実施と実施方法に関する改善を引き続き行う。 4. 学生代表との対話を実施する。 5. 他大学・団体等の「FD活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加を引き続き行う。

■検討組織名：全学FD委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月2日	1. 2024年度全学FD・SD研修会の反省 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の改善について検討
2024年5月31日 授業アンケート小委員会	1. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」集計データまとめ作業の効率化検討。 2. 自由記述欄の改善方法等について検討。
2024年6月25日	1. 2024年度全学FD・SD秋の研修会の開催方法とテーマについて検討 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」集計方法と設問文変更の検討 3. 学生との懇談会の実施について検討。
2024年7月23日	1. 2024年度全学FD・SD秋の研修会開催方法とテーマ、講師を決定 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」前期の集計について確認
2024年9月10日	1. 2024年度全学FD・SD秋の研修会の生成AIをテーマとする内容について振り返り 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について自由記述について検討
2024年9月30日	1. 2024年度学生との懇談会の振り返り 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」での自由記述での不適切な投稿について検討
2024年12月3日	1. 2025年度全学FD・SD研修会のプログラムと講師を決定。 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」配信文、スケジュール、役割配分の検討
2025年2月25日	1. 2024年度全学FD・SD春の研修会のプログラム、実施形態決定。委員の役割を確認 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」進捗状況の確認

協 議 機 関

<p>本年度の課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2018年度開始の現カリキュラムの見直しを継続する。 学生支援として、学生が幅広い物の見方ができるように学内外との交流を図る場を設定する。 環境問題への取り組みを各科目に取り入れる。さらに、学生へは学外・国外等のSDGsに関する行事への参加を促すような環境を整備する。 ICT化促進の講座(教科書)のデジタル化を2025年度実施に向けて2024年度は最終調整をすると共に、生成AIの取り入れ状況を模索しながら仮想現実・拡張現実等を取り入れた動画の開発を行う。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> ファッションクリエイション学科では3年次からのフィールド分けにおいて、学生の選択に偏りが生じていたことにより、3つのフィールドによる専門性の教育が薄れてきた問題点が浮上していた。対策として2023年度から2024年度までカリキュラム体系図の見直しを続けてきた結果、「デザインフィールド、テクニックフィールド、サイエンスフィールド」の新しいフィールド名に変更することとなり、2025年度の新入生より適用することにした。学生にとってより分かりやすく、より専門性が明確に反映されたものとして評価できる。 (1)2024年度の特別留学プログラムに、服装学部からは2人の学生が参加し、国境を越えた学びをとおして交流の場を広げた。 (2)海外提携校である中国浙江理工大学の卒業イベントに参加し、本学教員の講演などを通じた交流を行った。 (3)授業時間外にも学生が自由に実習施設の利用ができるように、ファッションクリエイション学科では生産工学実習室(3教室)を予約制で開放し、常設している縫製機器の全てが使用されている。また、低学年生に対しては質問に対応できる臨時雇員が常駐した状態で週2日の14時から19時まで服装造形学実習室を開放し、学修支援を行っている。 ファッション社会学科では、演習科目におけるディスカッションやグループワーク、卒業研究などに学生が利用できる演習室を常に開放し、学生同士の交流をとおした学修を目的とした支援を行っている。 2学科における環境問題やSDGsに関する教育の一環として以下のプロジェクトに取り組んだ。 (1)ファッションクリエイション学科では、企業(BEAMS)や学生から不要となった衣類を提供いただき、「クチュール演習Ⅱ」の授業でアップサイクル作品を制作し、有楽町マルイにて展示を行った。また、株式会社エンドレスより廃棄予定のアクセサリパーツ(規格外品)の提供を受け、「ファッションアクセサリ」の履修者80人がアップサイクル作品を制作した。このうち、5人の作品が優秀作品として受賞し、PARTS CLUB新宿サブナード店内にて2日間のポップアップ展示をするなど、多数の産学連携プロジェクトに取り組むことができた。 (2)ファッション社会学科では、ゼミ活動の一環として、授業や課題で出た端切れ等の残布から作られた「100%BUNKAの布」の制作や、KISARAZU CONCEPT STOREでのワークショップ開催、企業(新宿高島屋)とのコラボレーションにより和紙100%で作った「纏うハンカチ」を企画・開発したほか多数の取り組みを行った。 ファッションクリエイション学科では、2025年度からの実施に向けて講座のデジタル化及び生成AIによる仮想現実や拡張現実を取り入れ動画の開発を推進してきたが、まだ十分な状態には至らなかった。そのため、2025年度も引き続きデジタル化を促進していく。
<p>次年度への 課題 (2025年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> カリキュラムのスリム化及びカリキュラムの再編 学生の効率的な授業の履修及び教員の合理的な研究時間の確保 基礎教育(基礎ゼミ)の方法及び専門教育(専門ゼミ)の在り方についての見直し 学科の魅力向上及び外部に向けた広報活動の拡大

■検討機関名：服装学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年 4月 1日	<ol style="list-style-type: none"> 2024年度学部協議会の運営メンバー及び構成員について 2024年度 服装学部運営方針及び会議体構成について 学科報告及びその他
2024年 5月 14日	<ol style="list-style-type: none"> 2024年度予算削減について 2025年度指定校(評定・推薦人数)について 卒業研究の提出に関する学部間の共通認識について 学科報告及びその他
2024年 6月 11日	<ol style="list-style-type: none"> カリキュラム変更について 国際交流関連 (1)IFFTI(International Foundation of Fashion Technology Institutes) 2024 Seoul 及び 2025 London について (2)中国浙江理工大学の卒業イベント参加及び講演について (出張報告) 学科報告及びその他
2024年 7月 9日	<ol style="list-style-type: none"> カリキュラム変更に関する審議 学内研究発表会について 学科報告及びその他
2024年 9月 3日	<ol style="list-style-type: none"> 2024年度 学内研究発表・交流会について 学科報告及びその他
2024年 10月 8日	<ol style="list-style-type: none"> 教員勤務時間管理体制について 学科報告及びその他
2024年 11月 12日	<ol style="list-style-type: none"> 学長選考委員会委員選出に関する審議 教員勤務時間管理体制について 2024年度 FIE(ファッションイラストレーション展)について 学科報告及びその他
2024年 12月 10日	<ol style="list-style-type: none"> 学科定員の変更及び教場不足の対応について 「夢ナビ2024」について 学科報告及びその他
2025年 1月 6日	<ol style="list-style-type: none"> 学長選考委員会に関する件 ファッション社会学科定員変更に関する件 学科報告及びその他
2025年 2月 4日	<ol style="list-style-type: none"> 教授会審議事項に関する補足説明及び試験時の不正行為事案について 卒業研究の学長賞展示について 学科報告及びその他
2025年 3月 4日	<ol style="list-style-type: none"> 学生の不正行為について 服装学部における3つのポリシーの見直しについて 2025年度ファッション社会学科「キャリアデザイン(展開編)」の日時について(審議) 卒業研究の学長賞展示について 学科報告及びその他

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人材養成目的、コース編成、研究室編成、科目履修方法の見直し 2. 教育の質保証のための教育環境の整備 3. カリキュラム編成の妥当性の検証 4. ラーニングポートフォリオ（以下「LP」）による学修成果の自己評価 5. 学外連携（産学連携・地域連携・高大連携）の促進 6. 修学成果の学外公表の促進
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. デザイン・造形学科では、2026 年度から入学定員を 125 人から 145 人に増やすことになった（2025 年 2 月 4 日教授会承認、2025 年 2 月 25 日理事会承認）。これを機に、学科の人材育成目的及びコース編成を見直し、2027 年度入学生から新コースを設置するための『新コース検討WG』を造形学部主任教授会のもとに立ち上げた。建築・インテリア学科では、人材育成目的の中でも「設計関連実務者の養成」を重視し、2025 年度入学生のカリキュラム編成の大幅な見直し・改定を行った。両学科とも、今日の社会情勢に応じた人材育成目的の見直しが行われたと評価できる。 2. 建築・インテリア学科では、学生の主体的な学びの場を確保するために、2024 年 6 月 28 日から A182（建築・インテリア実習室 a）を、授業で使用している時間帯以外は学生が自由に使える自習室として、平日は 21 時まで、土曜日 18 時まで開放することとした。これにより、教育の質保証のための教育環境は一定の改善がなされたと評価できる。 3. デザイン・造形学科では、カリキュラム編成に変更はなかった。建築・インテリア学科では、2025 年度からの新カリキュラムを実施するための具体的な教育体制（授業担当者、時間割、教室など）を決定した。教育のポリシー（3 つのポリシー）については、両学科において精緻な見直しを行い、学則との整合性、文言のわかりやすさという点から修正を加えた。これらにより、カリキュラムポリシーに沿ったカリキュラム編成の妥当性の検証がなされたと評価できる。 4. 建築・インテリア学科では 3 つの講義科目において、ルーブリック型の LP を Google フォームを用いて実施した。デザイン・造形学科ではオムニバス形式の演習科目 1 科目において、LP を紙媒体で作成し、オンラインシステムでフィードバックする方法で実施した。これらの修学成果の自己評価方法はいずれも試行的なものであり、LP の効果の検証及び手法の改善については、2025 年度の課題とした。 5. 学部共通経費で予定した「多摩産材を活用したインテリア小物のデザイン・制作」「長野県須坂市の古民家再生プロジェクト」「『染の小道』新宿中井・落合地域活性化プロジェクト」「ネクタイコラボレーション展」「重要無形民俗文化財 相馬野馬追の旗指物制作」「デコプラインドのデザインと制作」「芸能プロダクションと連携したメディア制作」はすべて実施することができた。当初の目的は達成できたと評価できる。 6. 造形学部の卒業研究展は、2025 年 2 月 8～10 日に来場型で実施した。また、卒業研究展オンラインサイト（学長賞、選抜作品、学長賞プレゼン動画）を 2025 年 3 月に大学ホームページにて公開した。このほか、各種の作品展、設計コンペ等において学生の学修成果を公表した。これらの学生の学修成果は『造形学部年間教育活動報告集（BZ）』や学部・学科の SNS 等で学外に公表した。これにより、修学成果の学外公表については、当初の目的を達成できたと評価できる。
<p>次年度への 課 題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的で多様な学びの推進（主体的な学び、学外での学び、学年を越えた学び） 2. 社会情勢の変化に対応した教育課程の編成 3. 自由闊達な研究活動の推進 4. 効果的な学生募集対策 5. 効果的なキャリア形成・就職支援

■検討機関名：造形学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月1日	1. 新任教員の紹介について 2. 2024年度の造形学部入学生数について 3. その他
2024年5月14日	1. 「キャリアデザイン（導入編）」について 2. 2024年度学内研究発表会の担当者について 3. LPについて 4. デザイン・造形学科の2025年度コース定員問題について 5. 生成AIの 授業内での取り扱いについて 6. 卒業研究の成績評価方法について 7. その他（インターンシ ップについて、2024年度卒業研究展について）
2024年6月11日	1. 5月26日のオープンキャンパスの振り返り 2. 2024年度のカリキュラム変更について 3. 2024年度学内研究発表会について 4. 2023年度の事業報告書について 5. 第二中期計画 の2023年度結果について 6. 学部に関連する大学の動向について（障がい学生支援の本学の体 制について、生成AI利用ガイドラインの周知について、副専攻プログラムの進捗状況について）
2024年7月9日	1. 2025年度のカリキュラム変更について 2. 「キャリアデザイン（展開編）」の計画について 3. 学部に関連する大学の動向について（大学教員の勤務時間管理、建築・インテリア学科にお ける実習室開放について、2025年度の退職・休職・復職・新採用の調査について） 4. その他 （卒業研究展、学内研究発表・交流会について、作品収集のお願い）
2024年9月3日	1. 「キャリアデザイン（展開編）」について 2. デザイン・造形学科のコース定員（予定） 3. 障がい学生支援について 4. 前期授業の振り返り 5. その他（2025年度の退職・休職・復職・ 新採用の調査について、コラボレーション科目について、学内研究発表・交流会、『BZ』について）
2024年10月8日	1. 「キャリアデザイン（展開編）」について 2. 「キャリアデザイン（導入編）」を終えて 3. AO入試1期志願者状況について 4. 文化祭について 5. 卒業研究展について 6. 教員 の昇任審査について 7. 就職委員会より 8. その他（学内研究発表・交流会について、学生の 受賞について）
2024年11月12日	1. 文化祭について 2. 卒業研究展について 3. 2025年度の留学生入試1期の志願状況につ いて 4. 2025年度の予算編成関連について 5. 教員の昇任申請、任期制教員の再任申請、副 手の採用申請（新規・継続）について 6. 研究活動の不正防止について 7. 認証評価における 実地調査について 8. 学長選考委員会の委員選出について 9. その他（2024年度『BZ』の記 事確定のための「2024年度学外連携事業」の現況確認について、『BZ』編集会議について、新匠工 芸展について）
2024年12月10日	1. キャリアデザイン展開編の振り返りについて 2. 卒展研究展について 3. 2025年度の入 試状況について 4. 2025年度の予算編成関連について 5. 2025年度の造形学部シラバスワー キンググループについて 6. 認証評価の実地調査を終えて 7. 学部に関連する大学の動向に ついて（非常勤講師の申請）副専攻プログラム制度の検討、各学科の定員充足率の変化に伴う各種 見直し 8. その他（『BZ』について、公欠の条件について）
2025年1月7日	1. 2025年度の入試状況について 2. 卒業研究展について 3. 抽選科目の設定に伴う課題に ついて 4. 2025年度の教場及び2026年度の学科定員について 5. その他（教育のポリシー（3 つのポリシー）の見直しについて、大学院入試の事前面談について、『BZ』について、公開講座実 行委員会より）
2025年2月4日	1. 2025年度の入試状況について 2. 造形学部・大学院生活環境学専攻の教育のポリシー（3 つのポリシー）の見直しについて 3. コース分けの進捗状況について 4. 卒業研究展について 5. 2025年度の造形学部事業計画について 6. その他（卒業研究の提出、教場試験・定期試験 における不正行為防止について、学部協議会の年間スケジュール資料について、就職委員会より、 『BZ』について）
2025年3月4日	1. 卒業研究展について 2. 2025年度の3年次コース分けの結果について 3. デザイン・造 形学科の新コースの設置検討について 4. その他（学生有志展覧会について）

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生募集に関して、オープンキャンパス、サマーオープンカレッジや文化祭展示などの内容についてさらに検討を重ねる。 2. 国際ファッション文化学科では、「国際交流イベント」を継続的に行う 3. 国際文化・観光学科は、観光分野の教員の補充に前向きに取り組む。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生募集に関して、国際ファッション文化学科では学科教員全員から意見を集め、ワーキンググループを立ち上げた。オープンキャンパスの学科紹介、サマーオープンカレッジ、文化祭展示など内容の見直しを行った。また、国際文化・観光学科においても学科紹介の内容の見直しを行った。その結果 2024 年度に比べて 2025 年度の入学人数が、国際文化・観光学科において 38%、国際ファッション文化学科においては 22%の増員となり、両学科とも入学定員を充足した。 2. 「国際交流イベント」の参加学生は 74 人の参加となった。イギリスのマンチェスター・メトロポリタン大学でファッションショーや現地学生を交えてのワークショップ、またロンドン市内での自主研修等行い、学生にとってさらに語学を学ぶ意識が向上した。 3. 国際文化・観光学科では、2024 年度は現存のカリキュラム内容の見直し等に注視することにとどめて、観光分野の教員の補充は見送った。
<p>次年度への 課 題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. オープンキャンパス、サマーオープンカレッジや文化祭展示などの内容についてだけでなく、カリキュラム内容の検討も含めさらに検討を重ね学生募集に繋げる。 2. 国際ファッション文化学科の「国際交流イベント」は、内容や受け入れ大学の検討も含め継続的に行う。 3. 産学連携・地域連携の拡充を行う。 4. 国際文化・観光学科では日本人学生と留学生双方の強みを生かした具体的な授業形態の実施と構築をする。 5. 国際文化・観光学科は観光分野の教員の補充についても検討する。 6. 国際ファッション文化学科では、学修効果の発表及び学生募集の一環となるべく、博物館での卒業イベント衣装展示に取り組む。

■検討機関名： 国際文化学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月1日	1. 学部協議会の運営について 2. 常置委員会改選について 3. 2024年度国際文化学部入学者数 4. 2024年度卒業記念パーティー開催について 5. 教室移動
2024年5月14日	1. 「キャリアデザイン（導入編）」について 2. 文化学園長野高等学校への出向授業 3. 2024年度学内研究発表会について 4. 国際ファッション文化学科カリキュラム変更 5. コラボレーション科目「文化・語学体験プログラム（カナダ）」について 6. 留学生交流会について
2024年6月11日	1. 副専攻プログラムについて 2. 勤務表について 3. 文化祭実行委員会報告 4. オープンキャンパスについて 5. 「SANDO フェス」参加について
2024年7月9日	1. 国際文化・観光学科カリキュラム改定 2. 国際ファッション文化学科カリキュラム改定 3. 教員の勤務時間について
2024年9月3日	1. 「国際交流イベント」について 2. 副専攻プログラムについて 3. 国際文化・観光学科カリキュラム改定について 4. 「文化・語学体験プログラム（海外）」 について 5. 大学 ICT 推進委員会報告
2024年10月8日	1. イントラマートの使用について 2. 文化祭について 3. 「国際交流イベント」報告 4. 「キャリアデザイン（導入編）」報告
2024年11月12日	1. 学長選考委員会の立ち上げについて 2. 文化祭来場者数 3. 本年度入試について 4. 国際文化・観光学科報告
2024年12月10日	1. 「卒業研究」卒業イベントの終了について 2. 研究倫理について再度の確認
2025年1月8日	1. 文化学園大学教育のポリシー（3つのポリシー）について 2. 教務委員会より履修登録 期間について 3. 白洋舎ウインドウ展示について 4. 国際文化・観光学科「プロジェクト セミナー」について 5. 各学科卒業研究発表会日程
2025年2月4日	1. 文化学園大学教育のポリシー（3つのポリシー）について 2. 定期試験についての注意 3. 大学 ICT 推進委員会報告 4. 学生支援委員会報告 5. 国際ファッション文化学科卒 業研究発表会終了 6. 「プロジェクトセミナー」報告
2025年3月4日	1. 学生との連絡について 2. 2025年度入試状況 3. 教員の退職について

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究室の再編成、教員の配置の見直しについては、さらに検討する。学部共通科目担当の非常勤講師についても、担当部署を整理する予定である。 2. 「総合教養のあり方検討 WG」では引き続きスタートガイドの効果を検証し、2025 年度に向けてさらにブラッシュアップする。また、LP についても試行を続ける。 3. 「タイムシフト科目検討 WG」では、アンケートの結果、存続を望む声が学生・教員ともに多数を占めたので、引き続きよりよいあり方を検討する。 4. 英語クラス分けテストを引き続き実施し、結果を分析して学生指導に生かしたい。また、2024 年度から一部の学科で留学生の日本語を必修化することになっている。効果的な日本語指導についても検討する。 5. オープンキャンパス・文化祭の参画については引き続き課題とする。 6. 「文化学園大学・教職研究会」を開催する。 7. 資格関連科目についてもあり方を検討する。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2023 年度に設置したワーキンググループ (以下「WG」) にて、上記課題 2. でも挙げた「総合教養のあり方検討 WG」と「タイムシフト科目検討 WG」の 2 つを立ち上げた。 2. 「総合教養のあり方検討 WG」を中心として、「教養科目スタートガイド」を作成した。2024 年度から学生に周知し、教養科目の履修登録の際に利用してもらっている。また、WG メンバーが担当科目を対象に試験的に LP を作成し、効果を検証した。WG が立案した新設科目 1 科目を教務委員会に提出したが、差し戻しとなった。引き続き検討していく。 3. 本格導入から 2 年が経過したタイムシフト科目については「タイムシフト科目検討 WG」が 2 年間の検証を行い、2025 年度以降のあり方を検討した。 4. 英語クラス分けテストについては、3 月の教授会で教員に周知、また、新入生には 4 月 5 日から受験できることを周知し、大きな混乱なく 96% の学生が受験した。 5. オープンキャンパス・文化祭への参画については 2025 年度の課題とする。 6. 「文化学園大学・教職研究会」については、文化祭期間中の 11 月 3 日に開催した。 7. 資格関連科目については全学的な整理が必要であり、2025 年度以降の課題とする。 <p>以上、2024 年度の課題については概ね達成できた。</p>
<p>次年度への 課 題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員のメンバー構成に合わせた協議会の進め方を検討する。中長期計画を見据えたあり方についても考えていく。 2. 2022 年度から変更された「総合教養科目」のあり方について検討する。カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを読み込み、現行の科目に落とし込んでいく。この作業とともに、2025 年度以降の開講科目の見直しを進める。 3. 「タイムシフト科目」に関しても引き続き検証を進める。 4. 2025 年度も英語のクラス分けテストを新入生全員に受験してもらい、外国語の履修に生かすことを検討する。 5. オープンキャンパス・文化祭への参画について引き続き検討する。 6. 「文化学園大学・教職研究会」を継続して開催する。 7. 資格関連科目については引き続き検討する。

■検討機関名：学部共通科目協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月1日	1. 新年度のメンバーと体制について 2. 学部長会報告 3. 委員会報告 4. WG 報告 5. 委員選出 6. その他
2024年5月14日	1. 学部長会報告 2. 委員会報告 3. WG 報告 4. その他
2024年6月11日	1. 学部長会報告 2. 委員会報告 3. WG 報告 (新設科目について) 4. その他
2024年7月9日	1. 学部長会報告 2. 委員会報告 (コラボレーション科目について) 3. WG 報告 タイムシフト科目の現状について 4. その他
2024年9月3日	1. 学部長会報告 2. 委員会報告 3. WG 報告 4. その他 退職者挨拶
2024年10月8日	1. 学部長会報告 (次期学長の選出について) 2. 委員会報告 抽選科目について 3. WG 報告 (新設科目について、インタビュー企画について、LP について) 4. その他 (教職研究会について、勤怠システムについて)
2024年11月12日	1. 学部長会報告 認証評価について 2. 委員会報告 3. WG 報告 4. その他 (学長選考委員会委員の選出)
2024年12月10日	1. 学部長会報告 (タイムシフト科目アンケート結果について、コラボレーション科目の変更について) 2. 委員会報告 (授業日程について) 3. WG 報告 4. シラバスワーキングメンバーについて
2025年1月21日	1. 学部長会報告 (学則変更について、教員人事について、新年度スケジュールについて) 2. WG 報告
2025年2月4日	1. 学部長会報告 (教員人事について) 2. 委員会報告 3. WG 報告 (新入生対象ガイドについて、LP について、Web シラバス執筆について) 4. その他 (服装学部留学生の日本語科目について)
2025年3月4日	1. 学部長会報告 2. 委員会報告 3. WG 報告 4. その他 5. 退職者挨拶

審 議 機 関

■検討組織名：生活環境学研究科委員会

報告者：米山 雄二

<p>本年度の 課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学部教育と大学院教育の接続性を高め、大学院生の入学者増加を図る。 2. 大学院の入学から修了まで円滑に学位取得できるよう、学修進捗をセルフチェックする新たな施策を検討する。 3. 大学院における若手教員の確保に向けて、本学大学院の科目に関わる機会を作る等、若手教員の育成を図る。
<p>取組の結果 と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学部教育と大学院教育の接続性を高めるために、2023 年度から大学院特別受講生の制度を導入したが、2024 年度に利用した学部学生はいなかった。大学院生の増加策として、出願前に研究テーマをその専門分野の教員と事前相談する受付を、Web のフォームにして相談しやすくしたところ、留学生の相談件数が急増し、入学者を増やすことができた。また、文部科学省が提案する授業料後払い制度について必要な規程を整備した。 大学院特別受講生及び授業料後払い制度を導入していることを、学部生に周知する取り組みを進め、大学院入学者の増加を図る。 2. 2024 年度の大学院セミナーは修了年次生全員が一同に参加して、研究テーマの中間発表を行い、新たな試みとして発表後に学修進捗についてグループディスカッションを行うなど、セルフチェックの意識を高めた。その結果、2024 年度は博士後期課程での学位取得者は無かったが、博士前期課程及び修士課程では修了予定者全員が論文を提出し、18 人が修士の学位を取得した。大学院セミナーの中間発表後に行うグループディスカッションは有効であり、2025 年度も実施する。 3. 大学院の各専修科目での複数担当及び共通科目の担当教員に、若手教員を起用する策を引き続き推進した。その結果、2025 年度に向けて博士後期課程で研究指導教員 1 人を加え、長く休講していた服装造形学の講座を開講することができた。この他、オムニバス形式の大学院特別講義において若手教員が講義する機会を設けて育成を試み、また大学院活動の役割分担においても若手教員へのシフトを進めることができた。 <p>以上、2024 年度の課題に対して実行できたのは 80%であった。</p>
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院での学修や各種制度について、学部生への周知活動を行い、大学院生の入学者増加を図る。 2. 留学生の増加に伴い、学修内容の理解に関する点検と改善の仕組みを検討する。 3. 大学院の担当教員を増加するため、大学院の授業及び研究指導を体験する機会づくりを試みる。

■検討機関名： 国際文化研究科委員会

告者：中沢 志保

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際文化研究科の将来像に関して、これまで以上に入念な検討が必要となる。 2. 国際文化研究科の担当教員の専門を研究科の枠を超えた形で生かす方向を検討する。 3. 国際文化研究科の担当教員が、それぞれの研究を一層深めるとともに、その成果を内外で発表する機会を増やしていくことを引き続き勤めていく。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024 年度の進学者がゼロになったことを受けて、2024 年 2 月 28 日、国際文化研究科の将来に関して検討するために臨時会議を開催し、「2025 年度進学者の募集停止、在籍する大学院生の修了後に国際文化研究科を廃止」の結論に至った。このことは、2024 年 4 月 16 日の大学院研究科委員会において審議され承認された。 2. 2024 年 4 月、国際文化研究科の担当教員の専門を生活環境学研究科で生かす方向で検討を開始し、同年 6 月に開催された大学院セミナーの教員ミーティングにおいて「国際文化研究科の将来構想」を提示し、意見交換をした。2024 年 11 月の大学院研究科委員会において、大学院共通選択科目として国際文化研究科から 7 科目の新設を提案したが承認には至らず、継続審議となった。 3. 国際文化研究科の担当教員が、学内外での研究報告や学術誌への投稿、公開講座の担当などの形で研究成果を出した。
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<p>国際文化研究科は廃止となったが、同研究科の研究で生活環境学研究科の中で生かせる分野があるかどうかを非公式な形で検討を継続する。</p>

■検討組織名：生活環境学研究科委員会・国際文化研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月16日	1. 国際文化研究科について 2. 2024年度ティーチング・アシスタント(TA)について 3. 2024年度修了年次生の指導教員について 4. 大学院セミナーについて 5. 2025年度大学院入試について 6. 根岸愛子特別奨学金及び文化学園大学大学院特別奨励金奨学生について 7. その他(2024年度大学院研究科委員会等の日程) 【被服環境学専攻委員会】 1. 2024年度 修了年次生の指導教員について 2. リサーチ・アシスタント(RA)について
2024年5月21日	1. ENSAD とのダブルディグリーについて 2. 研究指導グループの申請について 3. 大学院セミナーについて 4. 2025年度大学院入試の出題と採点者について 5. 学位論文審査基準について 6. その他(2025年度国際文化研究科の募集停止及び廃止の決定を受けて)
2024年6月18日	1. 大学院セミナーについて(スケジュール、実施要領、参加教員の確認等) 2. 学位論文審査基準について 3. その他(文化祭について)
2024年7月16日	1. 生活環境学研究科被服学専攻「被服学特別研究」(9月修了予定者)について 2. 論文審査教員の決定 3. 大学院セミナーについて(実施報告) 4. 2025年度大学院入試について(大学院入試1期、特別推薦、国費留学生) 5. 2025年度カリキュラム変更について 6. その他(研究倫理教育等)
2024年9月24日	1. 2024年度生活環境学研究科最終審査及び修了判定(9月修了) 2. 修士論文の説明会の開催日程及び配付資料について 3. 学生異動 4. その他(大使館推薦による国費外国人留学生等)
2024年10月15日	1. 文化祭準備状況について 2. 2025年度大学院セミナーについて 3. 2025年度カリキュラム変更について 4. その他(修士論文の説明会に関する資料の最終確認)
2024年11月26日	1. 被服学専攻グローバルファッション専修1年次「被服学特別研究」の指導教員について 2. 2025年度休講科目について 3. 2025年度カリキュラム変更について 4. 2025年度担当教員の変更について 5. 2025年度大学院セミナーについて 6. その他(研究概要書の提出状況等)
2024年12月3日	1. 2025年度シラバスチェックについて 2. 大学院活動報告書について 3. その他(修士論文発表会、2025年度の担当等) 【被服環境学専攻委員会】 1. 担当教員の変更について 2. その他(博士論文の事前審査について)
2024年12月18日	【被服環境学専攻委員会】 1. 担当教員の変更について
2025年1月24日	1. 修士論文について(論文審査教員の決定など) 2. 学則変更について 3. 2025年度「教育のポリシー(3つのポリシー)」の見直しについて 4. 担当教員の変更及び追加について 5. 2025年度「大学院特別講義(A/B)」について 6. その他(2025年度大学院研究科委員会日程案等) 【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文について 2. その他(2025年度休講科目)
2025年2月19日	1. 2026年度大学院入試について 2. 修士論文・修了作品最終審査及び修了判定 3. 2025年度担当教員の変更について 4. 2025年度「教育のポリシー(3つのポリシー)」について 5. 学則変更について 6. 2025年度大学院セミナーについて 7. 学生異動 8. その他(修士論文発表会等)
2025年3月3日	1. 2025年度ティーチング・アシスタント(TA)について 2. 学則変更について 3. 2025年度「教育のポリシー(3つのポリシー)」について 4. 2025年度特任教員について 5. 学生異動 6. その他(国際文化研究科の廃止等) 【被服環境学専攻委員会】 1. 2024年度被服環境学専攻修了判定 2. 2025年度大学院研究生入学判定

開催年月日		会議等の開催記録
2024年4月1日	審議事項 報告事項	1.委員会 2.学生異動について 3.研究生入学許可について 4.公欠審議について 1.委員会報告 2.教員の勤怠に関するガイドラインについて 3.2024年度新入生について 4.2025年度募集用の入学案内書等について 5.2025年度「入試日程」について 6.2024年度入学式について 7.2024年度総合消防訓練について 8.学生異動について（報告） 9.その他
2024年5月14日	審議事項 報告事項	1.規程改定等について 2.委員会 3.学生異動について 4.公欠について 1.委員会報告 2.文化学園大学杉並高校 1年生学校見学会について 3.学生異動について（報告） 4.研究生退学について（報告） 5.その他
2024年6月11日	審議事項 報告事項	1.委員会 2.学生異動について 1.委員会報告 2.学生異動について（報告） 3.その他
2024年7月9日	審議事項 報告事項	1.委員会 2.学生異動について 1.委員会報告 2.教員の勤務時間の取扱いに関する変更について 3.2025年度入学試験について 4.前期定期試験について 5.教員の夏季休暇等について 6.2025年度教員の国内外研修申請について 7.学生異動について（報告） 8.その他
2024年9月3日	審議事項 報告事項	1.委員会 2.研究生入学許可について 3.教員の海外及び国内研修に関する申請について 4.教員異動について 1.委員会報告 2.2025年度入学試験について 3.学生異動について（報告） 4.その他
2024年10月8日	審議事項 報告事項	1.委員会 2.学生異動について 3.2024年9月卒業について 4.公欠審議について 1.委員会報告 2.2025年度入試について 3.2025年度教員昇任審査・任期制教員の再任に関する申請について 4.2025年度任期制助手の採用について 5.2025年度副手の採用申請について 6.学生異動について（報告） 7.その他
2024年11月12日	審議事項 報告事項	1.規程改定について 2.学生異動について 3.公欠について 4.学長選考委員会委員選出について 1.委員会報告 2.2025年度入試について 3.学生異動について（報告） 4.その他
2024年12月10日	審議事項 報告事項	1.教員選考委員会委員について 2.委員会 3.学生異動について 4.公欠審議について 1.委員会報告 2.2025年度入試について 3.学生異動について（報告） 4.その他
2025年1月7日	審議事項 報告事項	1.委員会 2.学生異動について 3.公欠について 学長選考委員会からの報告 1.委員会報告 2.2025年度入試について 3.学生異動について（報告） 4.その他
2025年2月4日	審議及び 報告事項 審議事項 報告事項	教員異動について 1.入学定員の変更について 2.卒業研究について 3.試験における不正行為について 4.委員会 5.学生異動について 1.委員会報告 2.2025年度入試について 3.学生異動について（報告） 4.その他
2025年3月4日	審議事項 報告事項	1.特任教員について 2.教員異動について 3.試験における不正行為について 4.委員会 5.学生異動について 6.学則変更について 7.2024年度卒業判定について 8.2024年度資格判定について 1.委員会報告 2.2025年度入試について 3.学生異動について（報告） 4.その他

<p>本年度の課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し 4. 「コラボレーション科目」の検討 5. 授業に関する諸問題に関する検討
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「文化学園大学非常勤講師に関する規程（改定案）」「文化学園大学非常勤講師の任期に関する規程（廃止）」「学則変更」以上について、審議・承認後、教授会に提案した。審議においては、他の規程や学則との整合性を図るとともに、事前回覧で寄せられた意見等を検討、必要に応じて関連部署との間で確認・修正作業を行った。 2. 2025年度授業日程については、2024年度授業日程を基本に、変則日を減らすこと、補講日の日数確保等を考慮しながら審議・決定した。 3. (1)服装学部ファッションクリエイション学科、同ファッション社会学科、造形学部デザイン・造形学科、同建築・インテリア学科、国際文化学部国際文化・観光学科、同国際ファッション文化学科、教職関連科目のカリキュラム改定案について審議し承認後、教授会に提案した。審議の中では、文言の確認・修正等を行った。 (2)履修登録については、抽選科目をできるだけ削減する方向で調整を依頼した。 4. 近年、開講数の減少や抽選科目の増大による諸問題を検討し、選択科目にすることを学部長会に提案した。審議の結果、2025年度入学生より教養科目の中に位置づけ、選択科目として継続していくこととなった。 5. 各教員が改善を望む意見収集を行い、履修登録期間の見直し、抽選科目の方法、追加登録に関する対応などの諸問題について議論した。改善案を検討し、出来る範囲から順次実施している。
<p>次年度への 課題 (2025年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会及び教務に関する規程等の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し 4. 後期科目の追加登録方法に関する検討 5. 授業に関する諸問題に関する検討

■検討機関名：教務委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月23日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 三役(委員長・副委員長・書記)の決定 2. 2024年度の委員会日程の検討 3. 議事録の担当者について 4. カリキュラム改定の日程・書式について 5. 2023年度自己点検・評価報告書の確認 6. 教務委員会の資料の配付、議事録の確認について
2024年5月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度の教務委員会の検討内容に関する意見交換 2. 「コラボレーション科目」の今後に関する検討 3. 9月の委員会実施日程の変更について
2024年6月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラム改定の審議内容と審議方法の確認 2. 服装学部ファッション社会学科カリキュラム改定(案)の審議 3. 造形学部デザイン・造形学科カリキュラム改定(案)の審議 4. 今後の教務委員会の検討内容について 5. コラボレーション科目について 6. 規程改定に関する教務委員会の担当範囲について (3. 2024年9月3日教授会承認)
2024年7月23日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 服装学部ファッションクリエイション学科カリキュラム改定(案)の審議 2. 服装学部ファッション社会学科カリキュラム改定(案)の再審議 3. 造形学部建築・インテリア学科カリキュラム改定(案)の審議 4. 国際文化学部国際ファッション文化学科カリキュラム改定(案)の審議 5. 国際文化学部国際文化・観光学科カリキュラム改定(案)の審議 6. 学部共通科目カリキュラム改定(案)の審議 7. 学則(第3章第17条)変更の審議 8. 今後の教務委員会の検討内容について 9. コラボレーション科目の報告・確認 (1. 2. 3. 6. 7. 2024年9月3日教授会承認)
2024年9月5日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際文化学部国際文化・観光学科カリキュラム改定(案)の再審議 2. 国際文化学部国際ファッション文化学科カリキュラム改定(案)の再審議 3. 講義科目の抽選について 4. 今後の教務委員会の検討内容について 5. 2025年度授業日程(案)について 6. 学則(第8章第34条)変更の審議 7. コラボレーション科目について (1. 2. 6. 2024年10月8日教授会承認)
2024年10月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラム改定について 2. 講義科目の抽選について 3. 2025年度授業日程(案)の審議 4. 教員の海外及び国内研修に関する規程(改定案)の確認 5. 造形学部の専門教育科目「プロジェクトゼミナール」の単位取得に関する確認 6. オリエンテーションや履修登録期間のスケジュールに関する検討時期について 7. 大学機関別認証評価について
2024年11月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年度授業日程(案)の再審議 2. 履修登録期間について (1. 2024年12月10日教授会承認)
2024年12月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則(第2章第12条)変更の審議 2. 学則(第2章第10条)変更及びカリキュラム改定の審議 3. 2025年度履修登録スケジュール(案)の検討 4. 担当教員の許可が必要な場合に該当する事例について 5. 後期の追加登録について 6. コラボレーション科目の抽選について 7. 大学機関別認証評価の実地調査の際に指摘があった登録単位上限について 8. 英語のクラス分けテストについて (1. 2. 2025年1月7日教授会承認)
2025年1月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年度履修登録スケジュール(案)の再検討 2. 履修登録漏れの対応ルールについて 3. 2025年度授業日程の再審議 (3. 2025年2月4日教授会承認)
2025年2月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修登録漏れの対応ルールの検討 2. 2024年度自己点検・評価報告書(教務委員会・案)の確認 3. 副専攻プログラムについて (3. 2025年3月4日教授会承認)
2025年3月5日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年度教務委員会日程案の検討 2. 2024年度自己点検・評価報告書(教務委員会・案)の再確認

<p>本年度の課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生サービスについて (1)学生支援委員会・担任副担任・学生課・学生生活支援室・健康管理センターの連携により、学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談、学生の課外活動への支援を充実させる。(2) 様々な奨学金の告知をし、より多くの経済的に困窮する学生を支援する。(3)バイトネットの利用率を上げ、学生にとって安全なアルバイト環境を支援する。(4) 課外活動・クラブ活動への参加を促す。 2. 学修環境の整備について 学生支援委員会・学生課・学生会が連携して、学内の巡回を強化し、喫煙者減少に向けての方策を立てる。 3. 学生の意見・要望への対応について 学生会サミット等を通じて得られた学生の意見を、学修支援の体制改善に役立てる。 4. 留学生教育について 新入留学生懇談会の参加率をあげ、より多くの学生の意見をくみあげる。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. (1)学生支援委員会・担任・副担任・学生課・学生生活支援室・健康管理センターの連携で、心身の健康、生活相談などをきめ細かく支援したことを評価する(資料：なんでも相談室月別利用状況)。健康診断を4月オリエンテーション期間に全学年を対象に実施した。学生支援委員会・学生課・健康管理センターの協力により2024年度は受診率91.9%に上昇した(2023年度89.5%)。学生の健康管理に成果が得られたと評価する(資料：2024年度大学・大学院健康診断結果)。担任・副担任の学生指導を支援するために、「学生支援のマニュアル(2018年度版)」の改訂を行った。2025年4月発行予定。(2)学生支援委員会・学生課により様々な奨学金の告知と奨学金審査を行い、奨学金を必要とする学生に対して適切に採用できたと評価する(資料：2024年度日本学生支援機構奨学生数)。(3)学生に安全なアルバイトをしてもらうため、バイトネット事務局が主催する「学生のためのアルバイトセミナー(オンライン)」を紹介した。闇バイトやブラックバイトとの関わりを避けるためにも継続して利用を促す必要がある。(4)課外活動・クラブ活動を充実させるため、学生会リーダーズトレーニングを2025年2月に実施し、学生代表者が約90人参加した(資料：学生会リーダーズトレーニングについて)。2024年度のクラブ入部率は2023年度より2%増加した(資料：2024年度クラブ入部状況)。学生チャレンジプロジェクト助成金は、前期に2件、後期に3件を採択し、学生の学外での活動を支援できたと評価する(資料：2024年度前期・後期学生チャレンジプロジェクト助成金申込団体一覧)。 2. 喫煙マナー指導と学内美化を徹底するため、学生支援委員会・学生会運営委員会執行部・学生課で年2回の緑道・学内巡回指導を行った(資料：文化学園大学緑道・学内巡回指導実施報告)。教室などの施設利用時の学生の意識も高まり、学内はきれいに保たれているため、学生と協力して行う巡回指導の効果はあったと評価する。学内放送、啓発ポスターなどで禁煙指導を行っているが、喫煙者減少の効果は見られない。 3. 学生会サミットで提案された学内設備等に関する意見・要望等について関係部署と協議し、改善に向けての検討を依頼した。学生会サミットを実施することにより、学修支援の体制改善に役立っていることを評価する(資料：2024年度学生会サミット案件に関する回答)。 4. 新入留学生懇談会を実施し、抱えている問題点の聞き取りを行った結果、健康面、金銭面、学業面で特に大きな問題はないことが把握できた。出席率は86.5%で、2023年度より8%上昇した。担任・副担任との連携・指導の効果があったと評価する(資料：2024年度新入留学生懇談会結果報告)。留学生のための経済的支援については、採用基準に達した学生を採用できたと評価する。
<p>次年度への 課題 (2025年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生サービスについて (1)学生支援委員会・担任・副担任・学生課・学生生活支援室・健康管理センターの連携により、学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談への支援を充実させる。(2)学生の課外活動への支援を充実させる。(3)奨学金など学生に対する経済的な支援を充実させる。(4)担任・副担任の役割を明記した「学生支援マニュアル」の見直しを行い、学生サービスの充実を図る。 2. 学修環境の整備について 学生支援委員会・学生課・学生会が連携して学内の巡回指導を強化し、教育目的の達成のために、快適な学修環境を整備する。 3. 学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用について (1)学生会サミット等を通じて得られた学生の意見・要望を把握・分析し、関係部署との連携により、学修支援・学修環境・学生生活の改善を図る。(2)2026年度に実施予定の「第20回学生生活調査」の設問を検討する。 4. 留学生教育について (1)より多くの留学生の意見をくみあげ、留学生の教育支援・学生生活の改善を図る。(2)留学生の経済的支援を充実させる。

■検討組織名：学生支援委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月23日	1. 委員紹介 2. 委員会三役選出 3. 学生生活支援室報告
2024年5月28日	1. 年間活動方針と行事予定 2. 緑道・学内巡回指導について 3. 新入留学生懇談会について 4. 学生チャレンジプロジェクト助成金について 5. 2023年度自己点検・評価報告書について 6. 学生生活支援室報告 7. 総合学生生活委員会報告
2024年6月25日	1. 緑道・学内巡回指導報告 2. 新入留学生懇談会について 3. 学生支援のマニュアルについて 4. 学生生活支援室報告 5. クラブ入部状況について
2024年7月23日	1. 文化学園大学奨学金について 2. 文化学園大学紫友会奨学金について 3. 私費外国人留学生授業料減免について 4. 新入留学生懇談会結果報告 5. 学生生活支援室報告 6. 総合学生生活委員会報告
2024年9月17日	1. 学生支援のマニュアルについて 2. 学生生活支援室報告 3. 日本学生支援機構奨学生数について 4. 4月実施の健康診断結果について
2024年10月15日	1. 文化祭期間中の学内巡回指導について 2. 緑道・学内巡回指導について 3. 学生チャレンジプロジェクト助成金について 4. 学生生活支援室報告 5. 総合学生生活委員会報告
2024年11月26日	1. 緑道・学内巡回指導について 2. 学生会リーダーズトレーニングについて 3. 学生生活支援室報告
2025年1月28日	1. 緑道・学内巡回指導報告 2. 学生生活支援室報告
2025年2月18日	1. 2024年度自己点検・評価報告書について 2. 学生生活支援室報告 3. 総合学生生活委員会報告 4. 学生チャレンジプロジェクト助成金の規程作成について

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024 年度オープンキャンパス・授業公開・サマーオープンカレッジの実施と結果の検討 2. 入学事前教育プログラムに関する検討 3. 2025 年度オープンキャンパス・授業公開・サマーオープンカレッジのあり方の検討
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高校 1～3 年を対象とした、予約制（人数制限なし・当日参加有）による来場型（一部プログラムで Web 型も併用）オープンキャンパスを全 6 回実施した。大学概要紹介や学科紹介、入試説明、教職員・在学生との個別相談等のプログラムを実施。来場型と Web 型を合計して 2254 人（2023 年度より 24 人減）の高校生が参加した。また、2023 年度から取り入れた、学科紹介終了後から引き続き学科の個別相談を行うプログラムが好評だったため継続し、ブースを設けず気軽に教員や学生と話が出来る方法を取り入れた学科もあり、2023 年度より 19 人増の 840 人からの相談があった。2023 年度に小規模で再開した「授業公開」を通常開催に戻し、2023 年度より 332 人増の 426 人の高校生の来場を受けて、新型コロナウイルス感染症前の活気を感じることができた。大学の授業を体験するサマーオープンカレッジは来場型で行い、2023 年度より 17 人増の 345 人の高校生と留学生が参加した。特に高校 1・2 年生の参加者が 2023 年度より 38 人増加し、進路決定の早期化が伺われた。12 月の進学相談会については、この時期に卒業イベントを開催している国際文化学部国際ファッション文化学科を対象に実施し、結果 5 人の相談があった。3 月に実施した新高校 2・3 年生対象のオープンキャンパスは、281 人の高校生と保護者が参加した（2023 年度より 105 人増）。 2. 入学後の教育内容に関連する事前教育プログラムを実施した。プログラムへの申し込み率は 100% と良好であったが、課題の提出率は 92.4%であった。プログラムの開始時と終了時の比較では全学科で基礎学力等の向上がみられた。課題の実施とアンケート結果を各学科で検証した結果、全学科ともに 2025 年度は受講科目の変更をしないこととなった。 3. 2024 年度は、実施回ごとに報告・検討を重ね、改善点を是正しながらオープンキャンパスの開催が出来た。入学志願者の増加へつなげるために、これらの検討・改善・実施を踏まえ、2025 年度計画における検討を行った結果、2024 年度同様に自由参加型でどのタイミングからでも参加できることとし、実習授業の作品展示等が困難な学科が取り組んだ学科紹介パネル展示や学生のトークセッション、ミニ体験授業等が好評であったため引き続き行うこととした。また、高校生の進路決定の早期化を考慮し、2025 年 3 月のオープンキャンパスを 2026 年度学生募集のスタートと定め、9 月まで（全 7 回）実施することにより年度内志願者の増加につなげるようにした。また、教員による個別相談は 2024 年度同様に各学科で開催することとし、学科紹介から個別相談へスムーズに移行することで来場者の利便性を図るようにし、Web 企画では服装学部ファッションクリエーション学科が引き続きオンラインによる学科紹介の配信と個別相談を実施する。さらに、近年の留学生の志願者増加を受け、留学生向けに特化した入試説明プログラムを引き続き実施する。サマーオープンカレッジでは、参加者の年内入試志願状況の資料を参考に、より参加者の増加につながる講座を検討し実施する。授業公開については、2024 年度と同様に通常開催とする。 <p>以上のことから、入学志願者の増加に向けてより良い検討が行えたと評価できる。</p>
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025 年度オープンキャンパス・授業公開・サマーオープンカレッジの実施と結果の検討 2. 入学事前教育プログラムに関する検討 3. 2026 年度オープンキャンパス・授業公開・サマーオープンカレッジのあり方の検討

■検討機関名：入試対策委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月23日	<ol style="list-style-type: none"> 2024年度オープンキャンパスについて <ul style="list-style-type: none"> ・5月の開催内容について（確認） 2025年度AO入試説明動画の作成について（確認） 新委員への引継ぎと新三役について
2024年5月21日	<ol style="list-style-type: none"> オープンキャンパスについて <ul style="list-style-type: none"> ・5月、6月の開催内容について（確認） 2023年度 母校訪問実施報告について 入学事前教育プログラムについて（報告）
2024年6月25日	<ol style="list-style-type: none"> オープンキャンパスについて <ul style="list-style-type: none"> ・5月、6月の開催報告について ・7月の開催内容について（確認） 2024年度・2025年度入学事前教育プログラムについて（結果報告・講座科目検討） サマーオープンカレッジの開催内容について（確認）
2024年7月23日	<ol style="list-style-type: none"> オープンキャンパスについて <ul style="list-style-type: none"> ・7月の開催報告について ・8月の開催内容について（確認） 2025年度入学事前教育プログラムの実施科目について（報告） サマーオープンカレッジの開催内容について（確認）
2024年9月24日	<ol style="list-style-type: none"> オープンキャンパスについて <ul style="list-style-type: none"> ・8月、9月の開催報告について 2025年度オープンキャンパス、サマーオープンカレッジの日程について（提案） サマーオープンカレッジの開催報告について オープンキャンパス個別相談の対応について（検討）
2024年10月29日	<ol style="list-style-type: none"> 2025年度オープンキャンパス、サマーオープンカレッジの日程について（検討） 2025年度オープンキャンパススケジュール・事前参加者数の把握について（検討） サマーオープンカレッジの来場者の分析について（検討） 入試業務関連の依頼メール配信内容についての提案
2024年11月26日	<ol style="list-style-type: none"> 2025年度オープンキャンパス・サマーオープンカレッジの日程について（報告） 2025年3月オープンキャンパスの開催内容について（確認） 2026年度AO入試説明動画の作成について（確認）
2024年12月17日	<ol style="list-style-type: none"> 2025年度サマーオープンカレッジの開催内容について（検討） 2025年度オープンキャンパスの開催内容について（検討） 2025年度入試の12月までの結果について報告
2025年1月21日	<ol style="list-style-type: none"> 2025年度オープンキャンパスの開催内容について（検討） サマーオープンカレッジ参加者の志願状況について（報告） 2026年度AO入試説明動画の作成について（検討） 2025年3月オープンキャンパスの実施方法について（確認）
2025年2月25日	<ol style="list-style-type: none"> 2025年度オープンキャンパスの開催内容について（確認） 2025年度入学事前教育プログラム 申込状況について（報告） 2026年度AO入試説明動画の作成について（検討） 2025年3月オープンキャンパスの開催内容について（確認）

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①研修形式対応の検討 ②学生選抜方法と事前事後教育日程・期間の検討 ③コース単位報告会実施の有無と日程検討 ④受入れ企業増加取り組みの検討 ⑤公開報告会開示方法と1・2年生参加推進の検討</p> <p>2. 就職・キャリア支援 (1) 就職支援 ①就職活動への学生支援強化に伴う担任・副担任との連携 ②就職講座実施に伴う参加意識の向上と有効なオンライン活用の推進 ③起業を内容とした就職講座の検討 ④就職支援室サイトの整備と学生周知徹底の推進 ⑤新専門分野を視野に入れた企業開拓 ⑥就職講座単位化要否の検討 ⑦学内合同企業説明会実施時期の検討</p> <p>(2) キャリア支援 ①キャリア形成教育科目との連携による協力 ②進路調査 Web 実施方法の整備と記入内容の精査 ③3年以内卒業生の動向把握（紫友会連携、Google フォーム活用）の検討</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. ①対面を基本とし実施した。②各学部の意向に合わせ学生を選抜し事前教育を行った。日程や期間は特に問題がなかった。③公開報告会は各小委員会で研修生と下級生が参加しやすい方法を検討し、職種ごとの座談会形式や担当教員から発表者へのフィードバックなど次年度の参加につながる方法に変更し実施した。④新規企業開拓は、教員の伝手や来校企業、学内説明会参加企業に対して教職員協力の上で受入依頼を行った。2年生に対し「行きたい研修先」調査を行い、次年度企業選択の参考にする。⑤各小委員会委員が公開報告会への参加を呼び掛けるポスターを作成し、情報発信を行った。また、キャリアデザイン科目との共同開催など工夫し、1・2年生への参加を増やした。より活発で具体的な意見交換が実現し、新たな気づきを得るきっかけとなった。研修生同士の気づきには確実に効果があった。</p> <p>2. (1) 就職支援 ①キャリア形成教育科目での意識付けや担任・副担任がスムーズに情報発信できるようテキスト文書を作成するなど就職委員も担任・副担任と連携を図った。2025年度は就職委員から直接連絡する方法として Google Classroom の活用を検討する。②就職講座は対面と録画を使い分け、学生が参加しやすくなったが、2025年度は参加への意識付けが必要。就職活動早期化対策として実施した2年生向けの就職講座では、Google Classroom にポスターを掲載した。③起業については学部・学科の動向を見据えつつ検討した。④共有ドライブから就職支援室サイトへの移行を進め、よりタイムリーな就職情報発信に努め、学生の就職支援一課活用につなげる。⑤業界や学部の垣根を超えたマッチングの可能性が見込める企業と情報交換を行い、新たな職種の採用につなげられるよう検討を行った。⑥就職講座の単位化は現状難しい。「クリエイティブキャリア論」などと連携をすすめたい。⑦建築関連の企業説明会を11月に実施（17社172人）、それ以外は2月下旬にオンライン開催し68社1,224人の参加につなげた。2025年度も早期化対応を検討する。(2) キャリア支援 ①マイナビの協力で「ポートフォリオ制作講座」動画を配信した。ラグジュアリーブランドセミナーでは外資の小売業界の理解につなげた。キャリアデザイン科目に協力し、下級年次から働くことへの意識付けに努めた。②Google フォームを活用した調査方法で効率化を図ったが、回収率の向上が今後の課題。③卒業生の状況把握の調査の必要性及び活用について検討する。</p>
<p>次年度への 課 題 (2025 年度)</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①研修形式対応の検討 ②学生選抜方法と事前事後教育日程・期間の検討 ③受入れ企業増加取り組みの検討。④公開報告会開示方法と1・2年生参加推進の検討</p> <p>2. 就職・キャリア支援 (1) 就職支援 ①就職活動への学生支援強化に伴う担任・副担任との連携 ②就職講座実施に伴う参加意識の向上と有効なオンライン活用の推進 ③就職支援室サイトの整備と学生周知徹底の推進 ④新ジャンルの業態に対応した企業の開拓 ⑤学内合同企業説明会実施時期の検討 (2) キャリア支援 ①キャリア形成教育科目との連携 ②進路調査 Web 実施方法の整備と記入内容の精査 ③3年以内卒業生の動向把握（紫友会連携、Google フォーム活用）に関する検討</p>

■検討機関名：就職委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年5月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度就職委員会「委員一覧」について(任期改正:新規委員紹介) 2. 2024年度就職委員会「活動計画」・「小委員会活動」について 3. 「キャリアデザイン(実践編)－インターンシップ－」について(全体流れ説明) 4. 就職状況および学生の活動状況について(2024年3月卒業者「最終進路状況」、学校推薦求人状況) 5. その他(今後の就職委員会検討事項について)
2024年6月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の活動報告について 2. 2024年度活動計画について(2024年度活動計画 小委員会検討事項報告、インターンシップ企業開拓・学生選抜・報告会、3年次就職講座) 3. 就職状況及び学生の活動状況について 4. その他(インターンシップ学生選抜について、低学年就職支援検討案)
2024年7月23日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の活動報告について(インターンシップ公開報告会開催方法について、デザイン・造形学科低学年就職現状調査、造形ポートフォリオ講座見直し) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(4年次進路調査、3年次就職講座後期予定/進路調査カード配布・回収)
2024年9月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の活動報告・インターンシップ公開報告会について(実施方法、芸術系ポートフォリオ講座) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(3年次SPI対策実施、4年次進路調査、学内個別説明会)
2024年11月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の活動報告・インターンシップ公開報告会について(建築・インテリア系「合同企業研究会」) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(4年次就職活動状況アンケート、2年次AI自己分析講座、1・2年次留学生就職ガイダンス)
2025年1月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の活動報告について(服装学部：4年次就職決定状況報告/造形学部：インターンシップ公開報告会「参加者アンケート」、国際文化学部：国際文化・観光学科「インターンシップ公開報告会」終了報告、就職状況) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(4年次進路調査・就活アンケート、2年次AI自己分析講座、1・2年次留学生就職ガイダンス、インターンシップ企業評価報告書について)
2025年2月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会の活動報告について(自己点検・評価報告書「小委員会活動報告」) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(4年次最終進路調査、3年次ファッション・デザイン系「オンライン合説報告」、自己点検・評価報告書)

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<p>1. 大学の研究活動の活性化 (1) 新委員会（研究委員会、紀要編集委員会）での研究活動の活性化に向けた検討 (2) 科学研究費助成事業及び学外共同研究等の競争的外部資金の獲得に向けた支援体制に関する検討</p> <p>2. 教員の研究成果の発信 (1) 本学の研究内容や特色を広く示すための教員研究作品展に関する検討</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. (1) 新委員会体制のもと、研究活動の活性化について以下の検討を行った。</p> <p>① 研究室図書費及び重点配分図書費 研究活動を支える資料となる図書及び図書に準ずるものについて、研究室図書費として各研究室に適切な配分を行った。また、重点配分図書費対象図書の申請内容を変更し、文化学園大学研究室図書費運用準則に則って、研究目的での購入とすることを明記し、周知を図った。その結果、申請が 2 件あったものの申請研究室から取り下げの申し出があり、最終的に重点配分枠の申請は 0 件となった。2025 年度に向けて、重点配分図書の目的等について、よりわかりやすいものに改善し、積極的に申請できる方法を検討することとした。</p> <p>② A 館ショーウィンドーでの展示（教員研究・作品紹介「РЯФ (プロフ)」）研究発表の活性化という目的において一定の成果を達成したということで 2025 年度以降は本委員会としての開催は行わず、教員研究作品展の充実に注力することとした。その結果、2025 年度の同作品展の早期開催に向けて、検討する時間を十分に確保できた。</p> <p>③ 学外共同研究及び学外受託研究の申請に係る様式 「文化学園大学学外共同研究規程」の改定、及び「文化学園大学受託研究規程」の新設に伴い、各申請に係る様式の見直しを行った。(2024 年 6 月 11 日教授会報告) 学外共同研究については様式変更後に 1 件の申請があり、本委員会承認しており (2024 年 10 月 8 日教授会承認)、規程改定後のスムーズな申請が可能となった。</p> <p>(2) 科学研究費助成事業 (以下「科研費」) 等の競争的研究費獲得のための積極的申請に向け検討したが、申請要件等の変更に伴う新たな課題も生じており、整理が必要である。より具体的な支援体制については 2025 年度に引き続き検討していくこととした。</p> <p>2. (1)2024 年度第 39 回教員研究作品展は 2025 年 12 月 11 日～13 日に F 館ギャラリーにて開催した。出展数は 37 件で 2023 年度より 5 件減、来場者は 309 人で 2023 年度より 41 人減であった。あわせて、2025 年 2 月 10 日～3 月 10 日まで Web にて動画公開を行い、視聴回数は 245 回で、2023 年度よりも 12 回増となった。実物展示と動画配信を行うことで、学内外問わず、多くの方に作品をご覧いただく機会となった。また、本作品展の初の試みとして、同期間中にギャラリートークを企画・開催し、作品の背景やコンセプトについて理解を深める機会を来場者に提供することができた。加えて、課題であった開催年度内の教員の昇任審査の研究業績への反映について、2025 年度第 40 回教員研究作品展の早期開催を検討し、2025 年度より 10 月上旬の開催計画を立案した。(2025 年 4 月 1 日教授会報告)</p> <p>2024 年度は、新体制となって 1 年目であったがおおむね順調に進行、2025 年度の課題も確認できたことから委員会の取り組みとして評価できる。</p>
<p>次年度への課題 (2025 年度)</p>	<p>1. 大学の研究活動の活性化 (1) 研究活動の活性化に向けた検討 (2) 研究委員会において、科研費及び学外共同研究等の競争的外部資金の獲得に向けた支援体制に関する検討</p> <p>2. 教員の研究成果の発信 本学の研究内容や特色を広く示すための教員研究作品展に関する検討</p>

■検討機関名：研究委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度委員会体制について 2. 2024年度第39回教員研究作品展開催方法について確認 3. 2025年度第40回教員研究作品展開催日程について検討 4. 2024年度研究室図書費について確認
2024年5月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度研究室図書費申請に係る検討 2. 2024年度第39回教員研究作品展（出展登録、スケジュール等）について確認 3. 第39回教員研究作品展Web動画公開について確認 4. 2025年度第40回教員研究作品展開催日程について検討
2024年6月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学外共同研究及び学外受託研究の申請に係る様式について確認 2. 2024年度研究室図書費・重点配分に係る申請日程、価格範囲と目的について審議 3. 2024年度第39回教員研究作品展工程表の修正を確認 4. 2025年度第40回教員研究作品展開催及び撮影会場について検討
2024年7月31日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度研究室図書費・重点配分申請状況の報告 2. 2024年度第39回教員研究作品展登録者についての報告 3. 2025年度第40回教員研究作品展開催場所と撮影場所についての検討 4. 2024年度A館L階ショーウィンドー展示の日程と2025年度の募集について 5. 科研費の申請減少への対策について
2024年9月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学外共同研究申請1件について審議（2024年10月8日教授会承認） 2. 2024年度研究室図書費・重点配分申請状況の報告 3. 2024年度第39回教員研究作品展進捗状況について報告 4. 2024年度A館L階ショーウィンドー展示進捗状況についての報告 5. 科研費の申請減少への対策について検討 6. 2025年度第40回教員研究作品展の作品撮影候補会場の視察
2025年2月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度第39回教員研究作品展進捗状況について報告 2. 2025年度研究室図書費・重点配分申請についての検討
2025年3月10日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年度研究室図書費・重点配分図書についての検討 2. 2024年度第39回教員研究作品展について報告 3. 2025年度第40回教員研究作品展について

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新委員会での研究活動の活性化に向けた検討 2. 本学の研究内容や特色を広く示すための紀要に関する検討及び紀要の査読制度と質の確保に関する検討
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新委員会での研究活動の活性化に向けた検討 2024 年度より新たな委員会として改組され、『文化学園大学紀要』の編集刊行に注力する体制となった。本学紀要のあり方について再確認を行い、これまでの方針を踏襲しつつ、研究活動の活性化に資するものとなるよう方向性を確認した。教員の研究成果を発信する媒体として、より効果的な方法を模索すること、支援のあり方についての検討は、継続的に行う必要がある。 移行期にあたることから委員の所属部署に若干偏りがあり、多様な研究分野を取り扱う本学紀要にかかる組織として適正な体制となるよう、今後検討する必要がある。 2. 本学の研究内容や特色を広く示すための紀要に関する検討及び紀要の査読制度と質の確保に関する検討 (1)『文化学園大学紀要第 56 集』を編集刊行し、2025 年 3 月 4 日に本学ホームページ（以下「HP」）上の「教員の研究成果」にて Web 公開した。掲載件数は、研究論文 2 件、研究ノート 6 件、書評 1 件の計 9 件で、2023 年度比±0 件となった。掲載した研究の分野は、服装系・造形系・国際文化系・総合教養系など多岐にわたり、本学の特色を発信する役割を果たしていると評価できる。 (2)2023 年度（旧研究委員会 紀要編集小委員会）からの継続審議として、査読制度に関する見直しと検討を行った。現行の査読制度は引き続き継続することとし、主な課題である査読者の選定を円滑に進めるため、査読のガイドラインと協力依頼の事前周知を行った。2024 年度は概ね問題なく査読を実施できたと評価できる。査読者の選出方法や、一部教員に査読の負担の偏りがあることについては、引き続き選定基準や対応策を検討する必要がある。 また、紀要の質の確保に関して、査読を行わない投稿区分の原稿については、内容のチェック体制を整備する必要がある。 (3)紀要のあり方の検討に伴い、各種の編集作業及び体裁等についても点検を行った。 紀要投稿説明会（2023 年度までに数回実施）は、現状での必要性は低いと判断し、2024 年度は実施を見送った。希望者からの問い合わせがあれば対応する旨を周知することとし、特に問題は見られなかった。 印刷会社による見積りは、過去数年の実績を踏まえた業者に依頼し、対面での原稿確認作業は取りやめ、資料のみで対応する方法に変更した。 別刷りについては、紀要の PDF データ化及び昨今のデジタル化に伴い、需要が減少していることから、執筆者ごとに希望部数を確認し必要数のみ印刷・配付を行った。印刷費用及び配付作業が削減された。 巻末に掲載していた「投稿規程」「紀要の変遷」については、紀要の PDF データ化・Web 公開に伴い必要性が低くなったことから、掲載は取りやめ、編集作業の効率化に繋がった。 以上の対応によって、従来よりも編集作業が効率化されたと評価できる。
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『文化学園大学紀要』の編集刊行と内容の確認・検討 2. 査読者の選出方法及び偏りの是正に関する検討 3. 紀要の質の確保のための対応策の検討 4. 別刷り印刷についての見直し 5. 編集作業の更なる効率化についての検討 6. 委員会の組織体制に関する検討

■検討機関名：紀要編集委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年5月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 役割分担とスケジュールの確認 2. 登録案内・執筆要項の確認・査読ガイドラインの検討 3. 投稿説明会の実施方法の確認 4. 査読方法の改変についての確認
2024年6月4日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原稿提出要領等の検討 2. 査読方法の改変についての検討 3. 「文化学園大学紀要投稿規程」の改定案について (2024年6月11日教授会承認)
2024年7月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 登録者数の確定・追加登録の検討 2. 査読者の選定・査読書類の確認
2024年9月10日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 査読者の確定 2. 研究論文原稿の受取り 3. 査読者への原稿渡し・結果受取りの要領確認
2024年10月1日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 査読結果の確認 2. 投稿者への通知要領・回答書作成要領の確認、修正後の原稿受取り要領の確認 3. 研究ノート他原稿提出方法の確認
2024年10月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究論文修正原稿・研究ノート入稿原稿受取り確認 2. 査読者への修正原稿渡し・結果受取りの要領確認 3. ネイティブチェックの実施方法確認 4. 印刷業者見積方法の確認
2024年11月14日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修正後結果の確認・掲載可否の決定 2. 印刷業者見積結果の確認 3. ネイティブチェック及び入稿方法についての確認 4. 著者抄録利用許諾についての確認
2024年11月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入稿データの確認・データ受渡方法の確認・初校受取り・配付方法の確認 2. 投稿者・査読者アンケート等の実施方法の確認 3. 著者抄録利用許諾についての確認 3. インターネット等公開許諾書の配付方法の確認 5. 査読者宛の掲載可否通知方法の確認
2025年1月14日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初校戻しの確認・再校受取りと配付方法の確認・全体の体裁の確認 2. インターネット等公開許諾書の回収状況の確認 3. 投稿者・査読者アンケート等の実施方法の確認 4. 著者抄録利用許諾についての確認
2025年2月4日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再校戻しの確認・校了及び納品の進め方の確認・全体の体裁の確認 2. Web掲載の進め方の確認 3. 執筆者・査読者アンケート実施要領の確認 4. 著者抄録利用許諾についての確認
2025年2月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. アンケート結果の確認 2. 自己点検・次年度に向けた検討事項の確認 3. 別刷配付方法の確認

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<p>1. 各組織内で研究倫理の啓発が進むよう継続する。 2. 研究倫理に関してセルフチェックでの判断が難しい場合の事例紹介と相談を受け付ける。</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 本学教員及び本学附属機関の研究助成並びに科研費による研究活動を行っている教職員に向けて、研究倫理研修会をオンライン形式にて実施し、2024 年度は「著作権と生成 AI」をテーマとした。その内容はオンデマンド配信を行い、授業等で参加できなかった教員にも後日受講できるようにした。研修会の実施は学部長会及び教授会で周知を図り、受講を推進した。その結果、2024 年度も受講率は教員で 100%であり、受講後のアンケート調査による理解度は TOP 2BOX でほぼ 100%であった。受講結果は、学部長会及び教授会で報告し、研究倫理意識の一層の向上を図った。 大学院生には、大学院セミナーのプログラム内にて研究倫理教育を実施し、研究倫理の徹底に努めた。その結果、研究倫理審査申請が前年比+1 件と増加しており、研究倫理教育の実施が、研究倫理への意識向上の一翼を担っていることがわかる。 この他、2024 年度より研究倫理研修のアンケート結果を研究倫理教育責任者である学部長・研究科長等に共有し、各学部・研究科それぞれの分野における著作権及び生成 AI の適切な利用についての注意喚起を促した。 2. 2024 年度における研究倫理の審査は 21 件、うち承認が 20 件、審査不要 1 件で不承認はなかった。卒業研究及び修士論文関連での審査申請が増加しているが、倫理審査において判断が難しいグレーゾーンの申請は少なくなった。 以上、研究活動における最近の動向を踏まえた研修会の実施とセルフチェックシートの利用が浸透したこと、及びこれまでの研修会で学内のグレーゾーン事例を挙げて解説したことにより、研究者(教員・学生)の研究倫理の理解が進んだと考えられ、2024 年度の課題は実行できたと評価できる。</p>
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<p>1. 各組織内で研究倫理の啓発が進むよう継続する。 2. デジタル化の進展に伴う新たな研究倫理についての情報発信と対応</p>

開催年月日	研修会等の開催記録
2024 年 6 月 4 日	<p>助手を含む全教員を対象に、研究倫理啓発のための研修会をオンライン開催した。 テーマ：著作権と AI について 講演者：生活環境学研究科長</p>
2024 年 6 月 28 日	<p>大学院生を対象に、研究倫理教育を大学院セミナー時に実施した。 テーマ：大学院で研究を始めるにあたり —研究倫理について— 講演者：国際文化研究科長</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2025 年 3 月 5 日	<p>1. 2024 年度研究倫理審査実施報告 2. 文化学園大学データマネジメントポリシー案 3. 研究データの管理・利活用について 2025 年度の研究倫理研修会の内容の確認</p>

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 不正防止に係る諸活動（研修会、教育、説明会等）の継続実施 2. 公正な研究活動推進への組織的な取組みの継続 3. 利益相反を含む不正行為の防止と点検の周知
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 不正防止対策として、研究活動不正防止への研修・教育を以下のとおり実施した。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教職員を対象にしたコンプライアンス研修会 (2) 教職員を対象とした研究倫理研修会 (3) 大学院生を対象とした研究倫理教育 (4) 競争的研究費の使用に関する説明会 <p>これらの実施により、研究活動における不正行為及び注意点について理解を深め、(1)～(3)については受講後のアンケート調査により、その理解度及び2025年度への課題等も確認した。</p> 2. 公正な研究活動の推進に関する継続的な取組みとして、学長（最高管理責任者）による教授会での研究活動における不正防止の啓発、同様にコンプライアンス推進責任者による学部協議会等での啓発を要請した。また、2024年度からは、1. (1)の研修会はコンプライアンス推進責任者に、(2)の研修会は研究倫理教育責任者にそれぞれの部局に応じた研修会、教育等に生かせるよう自所属の教職員の理解度及び研修会への要望・提案等の意見を共有して、恒常的な研究活動の不正防止意識を促した。 3. 研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づいた学内の関連規程を確認し、学内規程の見直しを行った。「文化学園大学研究活動の不正防止及び公正性の確保に関する規程」については、告発に対する体制の責任者の明記、「研究公正委員会」及び「調査委員会」の役割を整理し、改定案を学長に提言した。 <p>研究インテグリティの確保に関する本学の対応として、2024年度は研究者番号取得者を対象に「府省共通研究開発管理システム（e-Rad）外の研究費の状況及び役職と所属機関への届け出状況（研究活動状況）」の報告を必須とし、利益相反等、該当していないことを確認した。</p> 4. 令和7（2025）年度科学研究費助成事業の制度改正された「安全保障貿易管理」の要件化について、継続者は該当しないことを確認した。今後、該当する場合を想定し、研究機関として管理体制の整備を進めることとした。 <p>2024年度不正防止計画の実施状況報告から適切な管理が行われており、2024年度の課題に対して実行できたこと、また2025年度以降の課題への対応も確認していることから評価できる。</p>
<p>次年度への 課 題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 不正防止に係る諸活動（研修会、教育、説明会等）の継続実施 2. 公正な研究活動推進への組織的な取組みの継続 3. 利益相反及び安全保障貿易管理等、不正行為の防止に係る管理体制の整備

■検討機関名：研究活動不正防止委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年 5月 7日	1. 「文化学園大学研究活動の不正防止及び公正性の確保に関する規程」の改定について (2024年5月20日学長決定)
2024年 6月 4日	1. 研究倫理研修会の実施（対象：助手以上の教員） (1) 基本的な考え方 (2) 著作権について (3) 生成AIと著作権の関係 (4) 研究倫理審査について 研修後のアンケートで個々の理解度を確認、統括管理責任者（本委員会委員長）より、最高管理責任者（学長、以下同じ）、並びに各研究倫理教育責任者に報告（2024年9月4日学部長会）
2024年 6月 4日	1. コンプライアンス研修会の実施（対象：助手以上の教員及び競争的研究費等の運営・管理に関わる職員） (1) コンプライアンスとは (2) 研究費の不正使用とは（研究費の不正使用の種類・態様） (3) 研究費の不正使用事案（文部科学省HP 令和5年度の研究費の不正使用事案） (4) 不正行為の告発窓口（学内窓口および通報方法の確認） (5) 研究費不正防止に関するガイドライン、学内規程等 研修後のアンケートで個々の理解度を確認、統括管理責任者（本委員会委員長）より、最高管理責任者、並びに各コンプライアンス推進責任者に報告（2024年9月4日学部長会）
2024年 6月 28日	1. 研究倫理教育の実施（対象：大学院生） (1) 研究倫理教育の意義 (2) 不正行為の種類と定義 (3) 人を対象とする研究（インフォームド・コンセント、個人情報の保護） (4) 本学の取り組み（研究倫理審査の申請前チェックシート、告発窓口） (5) 不正事案の例 (6) 著作権の基本 大学院セミナーにおいて修了年次生は現地にて対面、その他の大学院生はオンラインにて受講したことを報告（2024年7月16日大学院研究科委員会）
2024年 7月 22日 ～31日	1. 競争的研究費の使用に関する説明会（計6回）の実施
2024年 9月 4日	1. 研究倫理研修会及びコンプライアンス研修会の理解度確認報告及び今後の活動提案等情報共有（2024年9月4日学部長会）
2024年 10月 8日	1. 最高管理責任者による教員及び競争的研究費等の運営・管理に関わる職員への研究の実施、研究費の使用等についての各自確認、徹底の啓発（2024年10月8日教授会）
2024年 11月 13日	1. 統括管理責任者（本委員会委員長）からコンプライアンス推進責任者への各部署への研究活動不正防止についての定期的啓発を要請（2024年11月13日学部長会）
2024年 11月 13日	1. 監事及び監査員との研究活動不正防止に係る情報共有と意見交換
2025年 3月 5日	1. 研究活動不正防止委員会を開催し、以下の報告及び2024年度の取組みについて協議した。 (1) 2024年度不正防止計画の実施状況 (2) 教職員の不正行為防止への取組みの継続 (3) 令和7(2025)年度科学研究費助成事業の制度改正（安全保障貿易管理の要件化）への対応 (4) 研究費の適切な運用のための監事及び監査室等学園内の競争的研究費の運営・管理関連部署との情報共有・連携

■検討機関名：公開講座実行委員会

報告者：近藤 尚子

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討 2. 一般の方々への教養の増進と専門知識の修得に資する場としての受講者の参加を促すよう特別公開講座の開催方法と広報に関する検討
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別公開講座は広く大学の教育・研究上の成果を社会に紹介する場として開催されてきた。本学は服装学部・造形学部・国際文化学部の3学部から成り、国際文化・国際関係論は本学の教育・研究の大きな柱の一つである。そのため今回は中沢志保教授を講師として選出した。 2025年2月27日、特別公開講座「オープンハイマー - 科学と政治の接点を生きた科学者 -」を開催した。150人ほどの来場者を得て、本学の教育・研究の柱として国際関係論があることを学内外にアピールできた。また、タイムリーなテーマだったこともあり、講演後の質疑応答も活発であった。 2. 開催に当たっては7回の委員会を開催し、それぞれが役割分担に従って準備を進めた。委員会業務のスリム化(事前申し込みの廃止等)やその他の事情のため、前年より委員数も減っていたが、各委員の周到な準備により、スムーズに準備を進めることができ、当日の開催を迎えた。 今回のアンケート結果(回答数100)で参加回数を見ると、4回目以上が41人と最も多く、本講座が「大学の知の開放」として定着している様子をうかがうことができる。一方で、初めても39人とほぼ拮抗しており、従来とは違うテーマが新しい聴衆を獲得したことがうかがえる。きっかけとしては「案内はがき」が39人、「案内メール」が22人となっている。「紹介」もルートは異なるが6人いた。また、「テーマに関心」という答えが62人(複数回答のため約50%)であり、満足度では「とても満足」「やや満足」合わせて79人であった。 以上のことから、2024年度の課題は概ね達成できたと考える。
<p>次年度への 課 題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討 2. 一般の方々への教養の増進と専門知識の修得に資する場としての受講者の参加を促すよう特別公開講座の開催(企画・準備・運営等)に関する検討

■検討機関名：公開講座実行委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年5月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度委員顔合わせ 2. 2024年度公開講座実行委員会の課題の確認 3. 2024年度公開講座の方向性について確認 4. 公開講座の開催形式について 5. 開催時期と講演者について
2024年6月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講演者候補について確認 2. 2024年度のスケジュールと役割分担について
2024年7月23日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講演者と演題について 2. 2024年度の役割とスケジュール案について 3. 広報物作成について 4. 広報媒体について
2024年9月10日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教授会での審議について報告 2. 各役割の進捗状況について(1)広報物作成について (2) 広報物の発送について 3. A4フライヤー制作数について 4. その他
2024年12月3日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広報物作成について 2. 広報物の送付について (1) フライヤーを複数枚送付する団体について (2) ハガキの発送について 3. メールでの告知について 4. HPでの告知について 5. 講座受講後アンケートについて 6. 演壇花について 7. その他
2025年1月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広報物送付状況について (1) フライヤー発送報告 (2) DMハガキ発送報告 2. 広報・告知について 3. 会場準備について 4. 講座受講後アンケートについて 5. 当日の役割分担について
2025年2月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各役割の進捗状況について(1)講座受講後アンケートについて (2) 広報物の配布・掲示について (3) 講演資料レジュメとパワーポイントの作成について 2. 当日の役割分担と運営について 3. その他
2025年3月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本年度の活動の振り返り (1) 事前準備について (2) 当日の運営について 2. 「2024年度自己点検・評価報告書」の確認 3. その他

<p>本年度の課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 規程に基づく障がい学生への継続的な支援活動 2. 実効性のある障がい学生支援の在り方の検討 3. 関連部署との有機的な連携
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度の特別支援対象学生に対し、新規支援申請者及び2023年度に要支援認定を受けた学生に対する支援継続の要否の意思確認をしたうえで、支援を必要とする学生に持続的な支援が行われているか、学生の自主性と自立を目指した規程に基づく合理的配慮の実施がなされているか等、支援内容についての確認を行った。結果、2024年度の要支援学生は9人であった。要支援の継続を希望する学生には、学生生活支援室コーディネーターとの対話を行いながら、2024年度の方針に基づき継続的な支援がなされ、順調に修学し卒業に至った学生も窺え、概ねの目標に到達した。規程に基づく支援を継続的に実施していくことで、特別支援要請学生の修学のための本質的かつ具体的な支援を充実させ、当該学生の自立及び成長を促す支援を行うことに繋がったと思われる。 2. 2019年度以降、学園全体において学生支援への整備が図られ、文化学園障がい学生支援委員会に当委員会から委員として2人が参加している。学園全体の支援の状況及び課題点について共有し、合理的配慮の実施に際する教務上の公平性確保の重要性などについて意見交換を行った。要支援学生への個別支援については、学生生活支援室との連携を深め、コーディネーターが提案する個別支援の現状の把握、卒業後必要とされる社会的支援についての情報提供、及び就職指導などが行われた。また、実際に行われた合理的配慮の内容を大学障がい学生支援委員会へ申告し、実効性のある合理的配慮が実施されていることを確認した。また、支援に対する基本的な視点は、傷病又は障がいに関する確定診断の有無にかかわらず、教育的観点から合理的配慮に基づく修学上必要な支援を提供し、状況に応じた建設的な支援を行っていくことを確認している。支援環境の充実と整備については、2024年度中に合理的配慮に至るまでの流れを視覚化したガイドを学生向け及び教職員向けの2種類を作成し、その普及と理解に努めることとした。このガイドは2025年度新学期に間に合うよう整備を行い、学生向けガイドにおいては合理的配慮の内容を紹介のうえ申請の方法や手続きを明確化し、教職員向けガイドにおいてはそれぞれの担当業務の中で行うべき対応を明示し、グレイゾーンを含む要支援学生の合理的配慮に至る道筋を具体的に示すことができた。これらのことから、概ね2024年度の目標に到達したものと思われる。 3. 上質な合理的配慮に基づく学生支援を行うために、教務課、学生課、学生生活支援室、就職支援一課、文化学園障がい学生支援委員会との有機的な連携を継続して行った。2024年度の取組みとして上述のガイドを作成し、特別支援の必要性が窺がえる学生においても、申請手続きを行う部門となる学生生活支援室へ確実に繋がられるよう工夫を行った。学生生活における実務的な支援については、学生生活支援室の3人のコーディネーターが要支援学生個別の担当者となり、細かな対応と調整を行っている。障がいの内容は身体・精神・発達など様々であるため、要支援学生の求める支援内容を正確に把握するために障がい学生支援コーディネーター等の実務担当者の介入は有効であった。また、インクルーシブ教育として様々な情報の共有を行うことで、要支援学生が必要とする適切な支援の提供に概ねつなぐことができた。また、2025年2月教授会にて委員会名の表記等を「障害」から「障がい」に改めることとし、対象となる人々が心理的不快感を生じにくくなるような配慮を行うこととした。従って、今後も状況に応じた適切な合理的配慮の支援提供が求められるものの、2024年度の目標は概ね達成できたものと考えている。
<p>次年度への 課題 (2025年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 規程に基づく障がい学生への継続的な支援活動 2. 実効性のある障がい学生支援の在り方の検討 3. 関連部署との有機的な連携

■検討機関名：障がい学生支援委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年7月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化学園大学における要支援学生への学生支援及び合理的配慮等の流れについて 2. 「文化学園大学障がい学生支援委員会」と「学校法人文化学園障がい学生支援委員会」の業務のすみ分けについて 3. 作成中ガイドの教授会報告について
2024年12月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職員用「要支援学生の支援（合理的配慮）に関するガイド」、学生用「修学上の支援（合理的配慮）申請手続きガイド」について 2. 2024年度障がい学生支援室の支援対象学生について 3. 委員会名称の表記の変更について
2025年3月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度特別支援学生の最終報告及び2025年度の支援継続の状況 2. 特別支援学生への支援対応の在り方について 3. 2025年度の委員会の在り方等について

<p>本年度の課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 本学学生の留学を促進できるような支援及び安全な留学実施対策を具体的に検討する。 文化・語学研修専門委員会や他の語学研修プログラムとの連携を検討する。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) フランスの国立高等装飾美術学校（以下 ENSAD）と、中国の浙江理工大学とのダブルディグリーについて ダブルディグリーの大学院生3人（ENSAD 2人、浙江理工大学1人）を受け入れ、本学からは2024年10月より ENSAD へ1人を派遣した。 (2) 特別留学生について アメリカのニューヨーク州立ファッション工科大学（以下 FIT）から特別留学生を1人受け入れた。 (1) 2024年度特別留学プログラムについて 留学許可者のうち FIT1人、イギリスのアーツ・ユニバーシティ・ボーンマス（以下 AUB）1人より辞退の申し出があり、FIT1人、AUB2人が参加した。なお、辞退理由は、留学資格の基準未満、または経済的理由による辞退であった。 (2) 2025年度特別留学プログラムについて 留学希望者は、FIT2人(前年度比±0)、AUB1人(前年度比-2)について、1次面接、2次面接の結果、留学希望者全員の留学を許可した。参加学生増加に向け、今後も経済的な問題で参加することが困難な学生への支援も併せて検討していく。 (3) リスクマネジメントについて特別留学プログラムによる留学生は、留学中のトラブルをサポートする海外留学サポート保険に加入し、リスクマネジメントの意識付けを行った。 (4) 特別留学プログラムの説明会開催について 服装学部、造形学部合同で、国際文化学部は単独で、特別留学についての詳細を説明、参加学生からは留学の報告をする説明会を開催した。また、AUBの現地スタッフによるオンライン説明会も開催した。2025年度は、より多くの学生が参加できるよう、全学部合同で行い、留学の促進に努める。 「リスクマネジメントマニュアル」の見直しなど、文化・語学研修専門委員会や他の海外研修プログラムとの共通課題の検討が必要であるが、2024年度も連携を検討するまでに至らなかった。引き続き、共通課題について連携を検討する。
<p>次年度への 課題 (2025年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 本学学生の留学を促進できるような支援及び安全な留学実施対策を具体的に検討する。 文化・語学研修専門委員会や他の語学研修プログラムとの連携を検討する。

開催年月日	会議等の開催記録
<p>2024年6月5日</p>	<ol style="list-style-type: none"> 「FIT 特別留学プログラム」への参加について（審議） 服装学部ファッション社会学科を FIT 特別留学プログラムに参加できる学科として承認した。 AUB 特別留学プログラム辞退について その他 特別留学プログラムの説明会（在学生対象）の開催を検討 説明会内容については、特別留学プログラム参加学生からは、留学の報告、国際交流センターからは特別留学についての詳細を説明する説明会の開催を検討した。
<p>2024年11月27日</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2025年度特別留学プログラムについて（審議） 2024年10月23日 2025年度特別留学プログラム1次面接(英語による面接) 2024年11月22日 2025年度特別留学プログラム最終面接(日本語による面接) 留学希望者3人（FIT2人、AUB1人）の1次面接、最終面接について、面接担当者より報告。委員会として希望者全員の留学を許可した。 その他 留学許可者の今後の対応について各校に留学許可者を伝え、年明けには正式な願書を留学先に提出し、審査が行われる。最終的な受け入れ可否については、FIT は3月末頃、AUB は3月末頃～5月中に届く。 並行して、心理テスト、個別面談を行うことを確認した。

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職課程教育における目標と指導計画の明確化、履修辞退学生への対応 2. 教職履修生の免許取得に向けた教職員間の情報共有の推進と役割分担の適正化 3. 教職履修生の目的意識向上の促進と育成に向けた「履修カルテ」の活用 4. 教員採用試験対策講座の充実とキャリア支援 5. 教職課程カリキュラム及び時間割の適正化 6. 実践的指導力向上に向けた教職課程卒業生や関連校との連携
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新入生ガイダンス後に「2024 年度教職課程履修の手引き」を配付し、1 年次より教職課程履修生としての目的・目標の周知や意識向上に努めた。また、「教職課程ホームルーム」を各学年で定期的に開催し、教職課程履修に必要な手続きや心構えについての指導を計画的かつ継続的に行なったことは評価できる。履修辞退学生への対応については、学修状況の把握や履修カルテの活用など、学生一人ひとりの事情に応じた適切な個別指導が継続的な課題である。 2. 教職課程専門委員会において、教職員間で履修学生の状況を共有し、共通理解を図っている。教育実習履修審査では、履修保留者に加えて単位未取得者の再審査を学修状況を含めた総合的な観点から行ったことは評価できる。教職課程業務における役割分担の適性化や効率化を図るための工夫が継続的な課題である。 3. 教職履修生が自らの適性及び各学年の課題解決に向けて取り組む機会として、全学年参加型の「教職課程交歓会」（2024 年 11 月 20 日実施）を開催し、学科・コースや教科（家庭・美術）を越えた意見交換を行っている。上級生による履修経験の情報共有は有効な機会となり、学生の目的意識の再確認と意欲向上に繋がったことは評価できる。「教職課程履修カルテ」は、2024 年度の履修審査等で一定程度活用できたことは評価できるが、活用方法については更なる検討が必要である。 4. 「2026 年度教員採用試験対策講座」は、教員志望の 3 年生 13 人、2 年生 3 人が 2024 年 11 月開講当初に参加を希望し、近年増加傾向にある。Google Classroom を活用した教員求人情報などの情報配信が、教職への関心向上に繋がったことは評価できる。一方で担当者の負担増が課題であり、これらの学生に対応するために教員採用試験対策に特化した教職科目開講を検討する必要がある。 5. 服装学部 2 学科と造形学部 1 学科のカリキュラムにおいて、専門学科の時間割や授業外活動等が過密傾向にあり、教職課程との両立が厳しい現状がある。学修意欲のある学生に対して、時間割の適正化は今後も継続的な検討課題である。 6. 「教職研究会」（2024 年 11 月 3 日実施）は教職課程卒業生により構成され、学生に参加を促すことで教育現場の現状と実践的指導法について理解を深め、活発に意見交換ができたことは評価できる。また、「教育実習集中事前教育」（2025 年 2 月 25 日、26 日、27 日実施）における現職教員の講義、文化学園大学杉並中学・高等学校での学習会は、体験的学修の機会として教育実習に向けて高い成果を得ている。今後こうした教育現場に触れる学修の機会を更に充実させるため、学校体験活動等の導入が課題である。
<p>次年度への 課 題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職課程教育における履修計画と到達目標の明確化 2. 教職課程業務の適性化と効率化 3. 「教職課程履修ノート」及び「履修カルテ」の活用 4. 教員採用試験に関連するカリキュラムの検討 5. 教職課程カリキュラム及び時間割の適正化 6. 教職課程卒業生との連携及び「学校体験活動」

■検討機関名：教職課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月1日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2023年度自己点検・評価報告書の確認 2. 2024年度教職課程履修の手引き 3. 2024年度教職課程ガイダンス 4. 2024年度介護等体験 5. 2024年度教育実習 6. 2025年度教育実習履修審査の日程検討 7. 教職必修科目「調理学・調理実習」のカリキュラム改定案 8. 教職必修科目の時間割について 9. 教育学・調理学研究室の副手紹介
2024年5月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年度教育実習履修審査 2. 2024年度教育実習生一覧 3. 2024年度介護等体験費用と事前教育 4. 教職課程履修者数と教職課程ホームルーム実施計画 5. 抽選科目の履修について
2024年10月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度教育実習単位認定審査 2. 2024年度介護等体験の進捗状況 3. 教職課程ホームルーム 4. 2026年度教員採用試験対策講座 5. 第12回文化学園大学・教職研究会 6. 教職課程自己点検・評価報告書の作成と公開 7. 教職課程交歓会 8. 教職実践演習(中・高)成果報告会 9. 2025年度教育実習集中事前教育
2025年3月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年度教育実習履修再審査 2. 2024年度自己点検・評価報告書案 3. 教職課程ホームルーム実施の報告 4. 2024年度介護等体験の報告 5. 2025年度教育実習集中事前教育の報告 6. 教職課程履修4年生の進路状況 7. 2025年度教職課程ガイダンス 8. 教員採用試験対策講座の実施状況 9. 教職課程自己点検・評価報告書 10. 特別外部講師の講師料 11. 教職実践演習(中・高)成果報告会の報告 12. 2024年度教育実習報告 13. 教職課程専門委員会の委員補充

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学芸員資格の取得を目指す学生に、展覧会や博物館、学芸員業務に関係した学びの機会を広げるための情報を積極的に発信していく。 2. 文化学園服飾博物館の協力を得ながら進める「館園実習」について、担当学芸員と協働しながら、授業内容の確認と改善点の検討を進める。 3. 教育効果を高めるべく、「課程に関する専門科目」や「館園実習」の手法を確認し、課題がある場合にはこれを検討する。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学芸員課程より同課程履修学生に向けた情報の発信は、2024 年度もおもに Google Classroom を用いた。授業科目に関連する通知は勿論のこと、展覧会情報や博物館の現況、学芸員の業務に関わる書籍などを数回にわたって紹介した。大学進学まで、博物館および学芸員について触れる機会が少なかったであろう履修学生にとって、こうした情報は有用なものであったと評価している。また、学芸員課程ガイダンスの資料の共有もこの場を使って行った。Google Classroom 内にデータが残ることで、学生が履修に関する留意点を繰り返し確認できる点で有効であったと評価している。 2. 文化学園服飾博物館に所属する学芸員の協力を得て、充実した「館園実習」を行うことができた。日常の資料管理に関わる実践的な技術を体得するとともに、幅広い知識を身に付けることができた。また教育普及活動の一環として、2023 年度に続いて「鑑賞ガイド」の作成を行った。グループワークをベースとして行ったことから、他の学生の持つアイデアや作成に関わるスキルを目の当たりにすることができたことも、この実習を充実したものと評価する理由である。 3. 「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」の担当教員が 2024 年度を最後に退職となるため、後任教員の選定を進めた。検討の末、「館園実習」においても協力を仰ぐ、文化学園服飾博物館の学芸員にそれぞれの科目を引き継いでもらうこととなった。授業方針等の共有を丁寧に行い、2025 年度からのスムーズな移行が可能となるよう努めた。とりわけ、博物館法に博物館業務としての必要性が定められ、今後ますますその重要性を増すと考えられるデジタル情報の収集、整理、公開については、「博物館情報・メディア論」の中で引き続き適切に扱う必要があることから、同科目を担当する学芸員と授業内におけるこの点の扱いについて丁寧に確認を行うことができたことと評価している。
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学芸員養成課程に所属する学生に対して、学びの機会を広げるために、展覧会、博物館、学芸員業務に関係した情報を積極的に発信していく。 2. 文化学園服飾博物館の協力を得ながら進める「館園実習」について、担当学芸員と協働しながら、授業内容の確認と改善点の検討を進める。とりわけデジタルデータを使った教育普及活動は、今後の博物館運営において欠くべからざる要素であるため、この扱いについて実践的に学べる内容を引き続き盛り込んでいく。 3. 教育効果をより高めるべく、「課程に関する専門科目」や「館園実習」の手法を確認し、課題がある場合にはこれを検討し改善していく。

開催年月日	会議等の開催記録
2025 年 2 月 21 日	<p>会議（委員）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2024 年度の学芸員課程専門科目に関する振り返り 2. 科目の履修人数について確認、単位取得状況について確認 3. 学生の授業への取り組みについて意見交換 4. 2025 年度に向けた情報共有 <ul style="list-style-type: none"> ・科目担当教員の交替について ・4 月ガイダンスにおけるアナウンス内容について
2025 年 2 月 21 日	<p>会議（委員および服飾博物館学芸員）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2024 年度の館園実習に関する振り返り 2. 2025 年度の館園実習のあり方について意見交換 3. 2025 年度の館園実習スケジュールについて確認

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<p>1. 司書課程の授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2. 司書課程授業の学修効果を高めるために、図書館現場の経験を希望する受講生に大学図書館の学生チューデントアシスタント（以下「SA」）等を活用して体験する機会を設ける。</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. (1) 授業 新カリキュラム移行 13 年目の 2024 年度も、引き続き授業内容の魅力向上に取り組んだ。オンライン授業から対面授業への変更に伴う対応を次のように行った。 「児童サービス論」での現職図書館員による実演を行った。「図書館制度・経営論」等では、授業の中で図書館見学を行い、企業情報や法情報等のサービス実態を知り、課題解決のための資料を手にとって見るなど、学生が現場のサービス実態を実感できるようにした。「図書館概論」では授業の冒頭に新しい図書館を紹介し関心を引くようにし、また、23 人の読書体験を取めた『私の読書体験記』を冊子版で作成した。オンライン授業で導入した Google Classroom を活用して課題やミニツッペーパーの提出等を効率化、さらに学生へのフィードバックも適切に行うことで授業の満足度を高めるように努めた。 このように、対面授業への移行に伴う授業の魅力向上は順調に行うことができたと評価する。</p> <p>(2) 履修登録 履修ガイダンスを対面で実施し、個別対応で履修登録を支援した。2024 年度の登録者は 1 年生 29 人、2 年生 12 人、3 年生 12 人、4 年生 12 人、計 65 人で、2023 年度に比べ 6 人減だった。1 年生が多いのは司書課程科目が卒業単位の対象となった効果が持続していると評価する。</p> <p>(3) 卒業生の司書資格取得状況 12 人の卒業生が司書資格を取得した（国際文化学部 2 人、服装学部 4 人、造形学部 6 人）。2022 年度の 10 人から引き続き 3 年続けて 2 桁の司書資格取得者を送り出すことができた。</p> <p>(4) 「図書館概論」受講生のアンケート調査 1 年生向け科目「図書館概論」受講生に司書課程を受講する動機等の把握のため調査し、22 人が回答した。その主な結果は以下の通り。 ①司書課程の履修理由は、司書資格取得が 20 人、興味のある科目がある 1 人、情報技術が身に付く 1 人だった。 ②他に取得したい資格は、学芸員 10 人、教職を 2 人が希望する。 ③司書資格取得を考えた時期は、大学入学前 14 人、1 年生時 6 人、2 年生時が 2 人だった。 約 3 分の 2 の受講生が入学前の時点で司書資格取得を希望していることが分かる。 ④将来の職業との関係は、図書館等で働きたい 2 人、資格を生かせる職場で働きたい 4 人、資格には特にこだわらない 16 人という結果だった。 引き続き司書資格を取得したいという受講生の希望が叶えられるように努力する。</p> <p>(5) 司書課程の教員体制について 将来を考えて 2024 年度に非常勤講師 1 人を新規に採用することが出来た。</p> <p>2. 本学図書館 SA は、2023 年度に引き続き 2024 年度も 4 人が採用され、図書館のカウンターや排架等の実務経験を積むことができた。</p>
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<p>1. 司書課程の授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2. 司書課程授業の学習効果を高めるために、図書館現場の経験を希望する受講生に大学図書館の SA 等を活用して体験する機会を設ける。</p>

■検討機関名：司書課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月2日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 司書課程ガイダンスの配付資料について 2. 司書課程の履修登録について（司書課程履修中の学生への対応） 3. 司書課程の履修登録について（新入生への対応） 4. 夏季休暇中の集中講義について
2024年5月1日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度司書課程授業の登録状況 2. 2024年度司書課程の教員体制と授業の分担 3. 2024年度以降の司書課程教員体制
2024年7月27日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 司書課程授業の履修状況（前期）について 2. 前期の集中講義の成績登録時期について 3. 司書課程授業の実施方法（後期）、「児童サービス論」実演授業について
2024年10月4日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年度司書課程科目の担当教員について 2. 教員採用スケジュールについて 3. 履修要項中の司書課程の文案について 4. その他（児童サービス論の現職図書館員による実演スケジュール）
2024年10月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年度司書課程科目の担当教員について 2025年度の教員体制（常勤教員1人と非常勤教員）に伴う対応案を決定した。
2024年11月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年度司書課程担当非常勤講師の採用申請について 2025年度の司書課程科目を分担する教員の決定に基づく非常勤講師の採用申請について 2. 2025年度の時間割（集中講義の時間割を含む）について 3. 児童サービス論の現職図書館員による実演時の役割分担について
2025年2月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 司書課程専門委員会2024年度の報告について 2. 司書課程2025年度の準備について（オリエンテーション、履修登録、集中講義等） 3. 司書課程専門委員会2025年度の運営について 4. その他

<p>本年度の課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラムについて 最終試験対策講義の内容の充実と、試験問題の検討を行い、引き続き、全員が合格できるように指導する。 2. 上級学年の学生が資格取得を取りやめる傾向があり、減らすための対策を検討する。 3. 資格が取得しやすいような時間割の検討を行う。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最終試験対策講義の内容について充実を図った。本試験前に、事前(模擬)試験を1回実施、対策講座を分野ごとに3回に分けて実施した。それにより受験者は高得点で合格することができ、全員資格取得可となった。 2. 3年生の資格希望者が定員を満たしていない。1年生には学科集会で資格の説明を依頼しているが、2年生の学科集会で資格に関する説明を依頼することにした。 委員が担当する科目で、テキスタイルアドバイザー（以下「TA」）資格の必要性、その資格の活用について説明を行った。 4年生は4月時点で41人の登録者であったが、指定科目の取得不可により3人が取消の手続きを行った。4年次のガイダンスで資格取得の意識づけを強化する必要がある。 引き続き次年度への課題としたい。 3. 資格指定科目の重複がないかを確認した。 「染色加工学実験」「材料学実験C」は、フィールド選択科目との重なりを配慮しながら時間割を設定したことで、学生は問題なく履修することができた。
<p>次年度への 課題 (2025年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資格取得定員を充足するための対策 資格取得定員40人を満たすための対策を講じる。 「TA交流プロジェクト（日本衣料管理協会主催）」作成の、TA実習の動画資料を活用し、資格の魅力伝える。 2. 「TA実習」について 日本衣料管理協会でのTA実習のあり方は、2026年度も選択科目としているが、実習先の働き方の見直しや実習先の減少に伴い、実習に対する見直しの検討も継続されている。他大学ではTA実習を実施しているところもあるが、本学の対応としては、2026年度までTA実習を実施しないことにする。TA実習が必修となった場合のことを見据えて、実施についての検討を継続していく。 3. カリキュラムについて 最終試験対策講義の内容と、試験問題の検討を継続して行う。

■検討機関名：衣料管理士課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月3日	1. 2024年度衣料管理士課程専門委員、役割分担について 2. 自己点検・評価報告書の提出について
2024年6月18日	1. TA資格取得希望者の3年生について 2. 日本衣料管理協会年次報告書の確認 3. 本学のTES受験者について
2024年9月11日	1. 2024年度開講「TA試験対策授業」について 2. 2024年度の最終試験について 3. 衣料調査アンケートの学生への説明と回収方法について 4. 2025年度履修要項、衣料管理士課程の記載内容について
2024年12月20日	1. 衣料管理士最終試験について 2. 会長賞について 3. 年次報告書について 4. 衣料管理士必修科目の変更について 5. 衣料管理士終身会員の申込み状況について
2025年3月13日	1. 2025年度4月のオリエンテーション「TA資格に関するガイダンス」について 2. 自己点検・評価報告書について 3. 2025年度役割分担について

開催年月日	学生指導等の記録
2024年4月9日	ファッションクリエイション学科4年生対象 衣料管理士履修に関するガイダンス
2024年4月9日	ファッションクリエイション学科3年生対象 履修に関するガイダンス
2024年4月	ファッションクリエイション学科2年生対象 衣料管理士ガイダンス（動画）
2024年4月	ファッションクリエイション学科1年生対象 衣料管理士ガイダンス（動画）
2024年10月8日	ファッションクリエイション学科4年生対象 試験対策① オリエンテーション 事前試験
2024年11月12日	ファッションクリエイション学科4年生対象 試験対策② 解説講義Ⅰ
2024年11月19日	ファッションクリエイション学科4年生対象 試験対策③ 解説講義Ⅱ
2024年11月26日	ファッションクリエイション学科4年生対象 試験対策④ 解説講義Ⅲ
2024年12月10日	ファッションクリエイション学科4年生対象 試験実施 本試験 資格取得ガイダンス
2024年12月17日	ファッションクリエイション学科4年生対象 試験対策⑤ まとめ
2024年12月4日	ファッションクリエイション学科3年生対象 衣料の使用実態調査（日本衣料管理協会より依頼） 説明会
2024年12月10日	ファッションクリエイション学科4年生対象 資格認定証交付等の手続きに関する説明会
2025年1月8日	ファッションクリエイション学科3年生対象 衣料の使用実態調査の回収・点検

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在学生の資格取得支援対応策の継続 2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築 3. 建築・インテリア学科のカリキュラムの変更に伴う「建築士」等のカリキュラム認定申請
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. <ul style="list-style-type: none"> ・ 課外授業 1 講座（「インテリアコーディネーター資格試験対策講座 2024」）について例年通り実施を継続した。それ以外の講座は受験希望もなく、開講に至らなかったため、今後の資格講座について、全面的に見直すこととした。最近の学生の傾向として、資格取得への意欲が低いことや試験に慣れていない様子が見られることから、オリエンテーションや関連する授業などを通し、意欲の高い低学年のうちから資格取得を勧め、試験に慣れさせるなどの対策を検討した。 ・ 2025 年度のオリエンテーション資料についても、全面的に見直し、窓装飾プランナー、CAD 利用技術者試験 などの比較的受験しやすい資格や、宅地建物取引士、建築施工管理技士など卒業生の進路に関わる資格を増やす。 ・ また二級建築士のアカデミック講座については、5 月末にガイダンス・説明会を実施し、7 月から開講したが、後期の参加率が非常に低かったため、2025 年度からはスケジュールを前倒しにすることを検討することになった。 ・ 全般に 2024 年度は課題が明確になり、今後の対策を検討することができた。 2. 建築・インテリア系資格の受験及び資格取得状況について、在学生（2～4 年）については 4 月に、卒業年次生については 3 月卒業時にも調査を実施した。また新生は 5 月に入学後のアンケートとして、他の項目も含めて実施した。アンケート調査の回答率も含め、低学年の方が資格取得意欲が高いことがわかり、今後の資格対策も意欲の高い低学年に受験を促すよう、反映していく。 3. <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築・インテリア学科のカリキュラム変更に伴い、建築士指定科目確認審査基準および指定科目の確認審査における判定の留意点について再確認し、全シラバスのチェックを行った。シラバスチェックでは、各科目の申請可否、該当する分類項目を確認した。 ・ またシラバスチェックに先立って、他大学のインテリア科目で、建築士受験科目になっている科目があるか確認し、チェック後は各科目において、規定に照らし合わせて再度見直し、加筆修正を依頼した。 ・ 最終的に一部認められない科目があったものの、一、二級建築士の受験資格を得るに十分なカリキュラムであることが認定され、2024 年度の最大課題がクリアできた。
<p>次年度への 課 題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在学生の資格取得支援対応策について <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション資料を改訂する ・ 関連資格情報を収集、整理し、開講講座を再検討する ・ 二級建築士受験対策講座の開催時期の前倒しを検討する 2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生アンケートの結果を分析し、今後の対策に反映する 3. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請

■検討機関名：建築・インテリア系資格専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員交代と三役の選出について検討し、三役を変更した 2. 2024年度の課題について検討し、新カリキュラムへの変更による建築士確認申請が最大のミッションであること、そのスケジュールや方法について確認した 3. その他
2024年7月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建築士指定科目の確認申請書 新旧対照表（建築・インテリア学科 2024年度入学者対象）について検討し、新カリキュラムの内容を反映させて作成した 2. 建築士指定科目のシラバスチェックについて（報告・審議） <ul style="list-style-type: none"> ・建築士指定科目確認審査基準及び指定科目の確認審査における判定の留意点について再確認し、全シラバスのチェックを行った。シラバスチェックでは、各科目の申請可否、該当する分類項目を確認した。 ・本委員会にて、WGにおいて想定していた分類から、要件等と照らし合わせながら、変更を検討し、それぞれの科目において、規定に照らし合わせて再度見直し、加筆修正を依頼した。
2024年10月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建築士指定科目の申請書類の最終確認を行った
2025年1月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業生の商業施設士補講習会受講申請について（報告・審議） <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生より問い合わせがあり、手続き方法を確認の上、対応について検討した。
2025年2月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建築士指定科目の認定結果について（報告） 2. 卒業生の商業施設士補講習会の受講について（報告） 3. 2025年度へ向けての課題について（審議） <ol style="list-style-type: none"> (1) 学科として重視する資格について検討し、オリエンテーション配付資料に掲載する資格を増加する。 (2) 商業施設士のカリキュラム認定について、新カリキュラムについて申請する 4. 2024年度活動報告、自己点検・評価について（報告）

<p>本年度の課題 (2024年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム(国内)」に関して、引き続き刷新した企画について実施、評価を行っていく。</p> <p>2. 海外留学 留学に関しては、引き続き学生の意欲を喚起しつつも適切な指導と審査を行う。</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 「文化・語学体験プログラム(国内)」は、国際文化・観光学科の授業(「プロジェクトセミナーⅡ」と連動させて研修プランを刷新し、研修内容については学生を小グループに分けて考えさせて、最終的にコンペティション方式により最優秀企画を研修内容に取り入れることにしている。2023度は、企画刷新後、最低催行人数をぎりぎり満たし初めて研修を実施することができ、参加した学生の満足度も高かった。しかし、2024年度は企画の完成度は高かったものの、人員が集まらず実施が叶わなかった。</p> <p>2. (1) 2024年度は1人の学生が留学をすることができ、大きな成長が認められた。 (2) 2023年度検討が終了した「誓約書」については、2024年度問題なく運営することができた。</p>
<p>次年度への 課題 (2025年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム(国内)」に関しては、引き続き刷新した企画について実施、評価を行っていくが、最低催行人数の確保が課題である。</p> <p>2. 海外留学 留学に関しては、引き続き学生の意欲を喚起しつつも適切な指導と審査を行う。</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2024年5月28日	<p>1. 留学規程を使用した留学に関して 審議の結果、1人の学生(国際文化・観光学科3年)のイギリスへの半年間の留学が認められた。</p>
2025年2月25日	<p>1. 留学規程を使った留学の単位認定に関して 半年間イギリスへ留学した学生の単位認定が行われた。</p> <p>2. 留学規程を使用した留学に関して 審議の結果、1人の学生(国際文化・観光学科2年)のオーストラリアへの半年間の留学が認められた。</p>

附 属 機 関 等

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<p>1. 利用者サービスの向上 2. 図書館資源の充実と活用 3. 収蔵環境、資料の管理 4. 目録データ標準化 5. 学内行事、業務への協力</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. (1) 貸出冊数が上限に達している利用者が見受けられたため、9月から貸出冊数と更新回数を増やした。その結果、4月から8月は対前年度比で86.3%だった貸出冊数が、9月から3月閉館時までは106.3%と20ポイントの大幅な増加となった。潜在的ニーズに合致し利用向上という成果につながった。</p> <p>(2) 利用頻度が低いデータベースを見直し、新たに「新建築データ」を導入することで、適切な情報に幅広くアクセスできる機会を増やした。</p> <p>(3) 電子コンテンツの利用促進のため、4月と夏休み前の7月にVPN接続について、また9月に文化Wi-Fiからの利用についてのお知らせをした。広報はしているが利用が増えることもなく、電子コンテンツの広報の難しさを感じると共に課題が残った。</p> <p>(4) 2年目を迎えた「私を創った本」の企画は軌道に乗り、第4回目は文化女子大学(現・文化学園大学)短期大学部卒業生で、デザイナー/アーティストの篠原ともえ氏、第5回目は、写真家の川谷光平氏で開催することが出来た。文化祭では多くの方にご覧いただいた。</p> <p>(5) トレンドブック『トレンドユニオン』『カルラン』のセミナーを計3回開催した。参加者の人数は平均35人ほどで少ないが、参加者からはとても良かったという声が多かった。これからも参加しやすい日程での開催をしていく。</p> <p>2. (1) 貴重書デジタルアーカイブは、2025年度からジャパンサーチと連携が出来るよう準備をすすめた。また、2024年度に引き続き個人文庫の未登録資料約60点を受入れた。個人文庫の新規登録分には2025年度に文化学園服飾博物館の展示資料として貸出しを予定している資料もある。さらに専門図書館としての機能向上のため、文化学園と関わりがある企業からの寄付の特典として、その企業の社員が図書館を利用できる制度を試行的に導入する準備をすすめている。その他、Sonia Delaunayの『Compositions, couleurs, idées』や文化祭では『Modes et manières d'aujourd'hui』の84枚のファッションプレートを展示し、利用者が貴重書に触れる機会を増やした。</p> <p>(2) 国内で最良の服飾関連資料のコレクションを有する図書館として、今後も服飾関連の資料情報を網羅的に収集し、さまざまな試みを継続して活用することは意義深いと評価する。</p> <p>3. (1) 2025年1月中旬より所沢倉庫への移転を行った。それに伴い専門分野外の図書を中心に約7万冊、及び相当数の雑誌の除籍を余儀なくされた。移転先の書庫はより良い収蔵環境が保てるよう努める。</p> <p>(2) 資料の保存のため学内資料を中心に脱酸性化処理をすすめる予定でいたが、予算の都合で2025年度の計画に繰り越すこととなった。そのため予定資料を温度湿度が整った稀観本室に移動し、資料の劣化を防ぐよう努めた。</p> <p>(3) マイクロ資料の保存状態を調査し、問題がないことを確認した。</p> <p>(4) 利用の多いデザイナー書架を増設し、ゆとりを持たせ資料を利用しやすくした。</p> <p>4. 2024年10月末に目録情報システムに「日本目録規則2018年版」が適用されたことに伴い、当館も新しいルール適用を始めた。規則を守り、引き続きデータの標準化を図るとともに、適切に運用していく。</p> <p>5. 造形学部デザイン・造形学科の学生が作成したテンペラ画を継続的に展示し、利用者の眼を楽しませた。また、中学生の職場体験の受け入れは、職員が改めて業務を振り返る良い機会となった。</p>
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<p>1. 利用者サービスの向上 2. 図書館資源の充実と活用 3. 収蔵環境、資料の管理 4. 目録データ標準化 5. 学内行事、業務への協力</p>

■検討組織名：文化学園大学図書館

開催年月日	会議等の開催記録（図書館委員会）
2024年7月2日	1. 図書館の現状（書庫） 2. 2023年度図書館業務報告 3. 2023年度資料費決算 4. 2023年度概要・業務報告説明 5. 2024年度業務計画及び進捗状況 6. 2024年度資料費予算 7. 外部書庫の移転について 8. 利用規程の改定についての審議（2024年7月9日教授会承認）
2024年12月3日	1. 2024年度業務計画進捗状況 2. 2024年度上半期資料費運用状況 3. 2024年度上半期図書館利用状況 4. 2025年度図書館業務計画・資料費予算(案) 5. 2025年度図書館カレンダーについての審議（2025年2月4日教授会承認） 6. 外部書庫の移転およびF館4階書庫の現状について

開催年月日	会議等の開催記録（部会）
2024年4月1日	1. 2024年度図書館業務計画 2. 2024年度組織編成・各課業務分担・業務グループ担当について 3. 2024年度資料費予算・教育経費予算について
2024年5月31日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 外部書庫の移転について
2024年6月28日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 外部書庫の移転について
2024年9月30日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 文化ファッション研究機構資料の移管受入について 4. 外部書庫の移転について
2024年11月29日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 2025年度業務計画（案）・資料費予算（案） 4. 外部書庫の移転について
2025年1月31日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 外部書庫の移転について

開催年月日	会議等の開催記録（運営会議）
2024年4月 9・16・23日	1. 各課報告 2. 図書館概要・業務報告について 3. 資料受入金額の齟齬について 4. 外部書庫の移転について 5. 企業の限定的な利用について
2024年5月 8・22日	1. 各課報告 2. 「私を創った本」について 3. 外部書庫の移転について
2024年6月 5・20日	1. 各課報告 2. 図書館委員会について 3. 利用規程の改定について 4. 外部書庫の移転について
2024年7月 10・25日	1. 各課報告 2. 文化ファッション研究機構資料の移管受入について 3. 蔵書統計について 4. 外部書庫の移転について
2024年8月29日	1. 各課報告 2. 企業の限定的な利用について 3. 個人文庫整理について
2024年9月 10・24日	1. 各課報告 2. F館書庫の空調について 3. 外部書庫の移転について
2024年10月 9・24日	1. 各課報告 2. 2025年度業務計画（案） 3. 図書館委員会について 4. 貴重書デジタルアーカイブのジャパンサーチ連携について 5. 外部書庫の移転について
2024年11月 14・21・28日	1. 各課報告 2. 図書館委員会について 3. 2024年度予算消化状況 4. 2025年度業務計画（案）・資料費予算（案） 5. 外部書庫の移転について
2024年12月3日	1. 各課報告 2. 図書館委員会について 3. 外部書庫の移転について
2025年1月 8・24日	1. 各課報告 2. 2024年度予算消化状況 3. 2025年度図書館カレンダーについて 4. 「私を創った本」について 5. 図書館だよりについて 6. 外部書庫の移転について
2025年2月5日	1. 各課報告 2. 2024年度予算消化状況 3. 外部書庫の移転について
2025年3月 5・11・27日	1. 各課報告 2. 2024年度予算消化状況 3. 所蔵資料複製物の利用について 4. 図書館資料管理規程の改定について 5. 2025年度組織編成・各課業務分担・業務グループ担当について

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 服飾文化の魅力を伝える展示と情報発信を推進し、多くの方に来館いただけるよう運営を図る。 2. 学園内学生に日常的に利用される学びの場となるよう、服飾資料の造形的な面白さを伝える展示を行う。 3. 汚損した展示台の修理を行い、展示ケースの飛散防止ガラス板への交換を進める。 4. 資料の整理と仕分けを定期的に行い、資料個々の重要性に合わせた、効率的な収蔵を目指す。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 服飾文化の魅力について多面的に伝えることを意識して、「“オモシロイフク” 大図鑑」「世界のビーズ」「あつまれ！ どうぶつの模様」、計3回の展覧会を開催した。学園内学生、教職員、及び学園外から多くの来館者があった。「世界のビーズ」展では、手芸愛好者向けのテレビ番組に取り上げられ、新たな来館者層を招くことができた。「服飾文化の魅力を伝える展示内容と情報発信」となったと評価している。今後も博物館の社会的役割を意識し、多く来館いただく工夫を重ねる。 2. 「“オモシロイフク” 大図鑑」展では「衣服の造形的な面白さ」に着目し、資料の持つ様々な面白さがわかるように視覚的に取り上げ、多くの来館者を得た。服飾の教育及び研究の原点である「造形的な面白さ」への関心をもつようにできたことは、学園の教育・研究に資する事業目的に合うものであったと評価する。今後、展示室の外部貸出による学びの情報の拡大を検討していく。 3. 展示台の修理、及び展示ケースのガラス板の飛散防止加工は予算が得られず見送りとなった。更新の時期となる設備の確認・点検を継続し、適切な設備更新を進めたい。 4. 展示や特別観覧に用いる機会の少ない資料の定期的な整理と仕分けを進め、また新規の資料の受け入れは、収集方針に照らして判断し、適切な資料管理ができたと評価している。引き続き、方針に沿った適切な整理・仕分け・収蔵を行い、収蔵スペースの効率的な使用を進めていく。
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 服飾資料の魅力が伝わる展示内容と情報発信を心掛け、多くの来館者が得られるよう努める。 2. 展示施設の外部貸出等、運営上の課題について検討を進める。 3. 汚損した展示台の修理を行い、展示ケースの飛散防止ガラス板への交換を進める。 4. 資料の重要性に合わせた資料の整理と仕分けを行い、収蔵スペースの効率的な利用を進める。

開催年月日	会議等の開催記録
2024年3月11日～ 6月22日	「“オモシロイフク” 大図鑑」展を開催した。従来、新入生にモードの歴史を知る機会とする目的で「ヨーロッパ・モード」展を毎年春季に開催してきたが、2024年度は新たな取り組みとして、衣服の造形的な面白さや多様性を直接的に伝えることを同展の企画とした。会期後半になるにつれて入館者が増加する傾向が見られた。来館者が SNS で情報発信した効果と考えている。
2024年7月19日～ 11月4日	「世界のビーズ」展を開催した。NHK Eテレの番組「すてきにハンドメイド」に取り上げられ、放送翌週から来館者が倍増し、会期最終週まで続いた。これは、服飾に近接する領域のファン層に向けた情報発信が来館者の増加につながったと考えている。
2024年12月5日～ 2025年3月5日	「あつまれ！ どうぶつの模様」展を開催した。動物の持つ特別な能力に対する畏敬の念を背景に世界の様々な地域で服飾の中に施された動物模様を取り上げた。同展覧会の関連イベントとして、スカジャン刺繍職人の山上大輔氏を招き、刺繍の実演を公開した。
2024年12月20日	博物館運営委員会をメール会議として開催し、(1) 2024年度 事業計画の進捗状況、(2) 2025年度 事業計画概要を報告した。
2025年3月4日	博物館運営委員会をオンラインで開催し、12月のメール会議時の配付資料を加筆した資料を元に、(1) 2024年度 事業計画の進捗状況、(2) 2025年度 事業計画について報告した。出席した委員より報告に関する意見を聞くとともに、今後の博物館の運営および企画について協議した。

<p>本年度の課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育支援体制の継続 2. 産学交流推進の継続 3. 外部への情報公開と交流促進の継続 4. テキスタイル・コスチューム資料室のデータベースの更新・拡充 5. 各資料室の資料検証及び利用・収集・整理 6. 人員補充・業務スリム化についての検討
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. (1) テキスタイル・映像・コスチュームの各資料室共に学内・学外に対してリファレンスを実施したことにより学内では利用や活用が増加した。学外へのリファレンスによってコラボレーションなど外部との取り組みにつながった。 また、教材・研究用として資料・標本を提供及び購入して収集し配架した結果、授業に役立てられた。 (2) 学生支援企画Studio oeufは学内で3回、学外で3回開催した。参加した学生にとってはユーザーとコミュニケーションを計る絶好の機会となり今後の作品制作について参考となったと思われる。 2. (1) 浜松市産業振興課との取り組みで自治体の補助金を活用して産地見学を実施。募集をし、希望の学生に斡旋した。工場見学、セミナーなど産地企業の方と触れ合いやものづくりの現場を肌で感じることができる体験ができ、有意義な取り組みとなった。 (2) 三菱ケミカルと共催のソアロンデザインコンテストは公開審査にて開催した。入賞者には副賞として賞金、賞品が贈られ、作品はフランスでのプルミエールビジョンでの展示など外部にアピールする機会が与えられ、制作に対するモチベーションが上がるなどの影響がみられた。 3. (1) 外部機関（テレビ局、美術館、広告）へ衣装などを貸与した。賃借料は雑収入としては本部経理部に計上。テレビ局、美術館などはクレジットを明記することにより広報活動となった。 (2) 卒業生支援企画リソースセンタークラブ（会費制）の運営を行った。Studio oeufへの参加、テキスタイルプリントの利用、装苑の年間購読など会員の特典を受けられる。2024年度は13人の正会員、賛助会員2社が加入した。 4. テキスタイル・コスチューム資料室のデータベースを更新することにより利用者の利便性が高められた。 5. 各資料室共に余剰資料については、教職員・学生対象の配賦会を2回開催した。余剰な布地や資料などを有効に活用することができた。配賦会は継続的に開催していきたい。 写真、フィルムなどの資料について継続してデータ化を進めている。 6. 補充無し。開室時間を短縮した。（9：30～18：30 → 9：30～18：00）
<p>次年度への 課題 (2025年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育支援体制の継続 2. 産学交流推進の継続 3. 外部への情報公開と交流促進の継続 4. 各資料室データベースの更新・拡充 5. 各資料室の資料検証及び利用・収集・整理方法の検討 6. 人員補充及び人員配置についての検討

<p>本年度の課題 (2024年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海外提携校との研修プログラムの新規開発 2. セミナー、レクチャーの企画実施及び海外コンテストの活用サポート 3. 大学のオープンキャンパスへの参加 4. 留学生の増加促進 5. 海外事務所の必要性の検討
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. (1)重点提携校との短期、中期海外研修プログラムの新規開発として2025年度からニューヨーク州立ファッション工科大学(FIT)特別留学プログラムの中に服装学部ファッション社会学科も対象となることが確定した。 (2)国際文化学部国際ファッション文化学科3年生が、海外研修先で行うファッションショーの対応を企画の段階から携わった。今回から渡航先がシアトルよりロンドンへ変更し、9月に初めてマンチェスター・メトロポリタン大学(以下「MMU」)のキャンパス内で行われたファッションショーは成功裏に終了した。 2. (1)オレグ・ミトロファノフ氏による、定期ワークショップ(夏2回、冬～春期間1回)を実施した。 (2)MMUがコーディネートしたアレキサンダー・マックイーン社とのコラボレーションプロジェクトに参加し、セミナー及び作品の展示会をMMU(9月)と本学(1月)にて実施した。本学で行われた展示会に合わせてMMUから学生40人が来校して学内見学を行い、うち約半数の学生が高村教授の授業を受けた。 (3)語学留学の意識を高めるため外部企業と共催した説明会を4回(4月、5月、10月、11月)開催した。春に開催した2回は、多くの学生が参加し、留学への関心の高さが伺えた。 (4)海外コンテストへ応募する学生のサポートとして、プレゼンテーション、ポートフォリオ作成や作品制作等へのアドバイスを実施した。特に日本人デザイナーや業界関係者を講師に招くポートフォリオレビューを11回開催。参加した学生達が学校の枠を超えて交流する場となっている。 3. 2024年度はオープンキャンパスに合わせて行われる服装学部ファッションクリエイション学科と国際文化学部国際ファッション文化学科のファッションショー開催日に参加した。海外留学、研修志向の高い学生の獲得につながっている。 4. コロナ明けよりJASSO日本留学フェアへの参加が法人でも可能となったので、バンコク会場は法人で参加した。タイから大学へ直接の出願は、言語習得の問題があり難しいが、本学園には日本語を学ぶ機関が学内に設置されている利便性を伝えることができた。 5. (1)パリ事務所は、パリコレクション視察で渡仏する教員へショーのinvitationをブランドへ申請する方法や現地でのアテンド等の対応を行った。また毎シーズン取材をしているパリコレクションやコンテスト(ITS、イエール)の情報をセミナーだけではなくオンライン授業などに取り入れてもらえるようにしたい。 (2)バンコク事務所は、コラボレーション科目「タイの学生とファッションを学ぼう2024」で提携校のランシット大学と本学との連絡サポートを行った。 (3)留学生獲得に関わる業務を中心に経費の有効活用を徹底し継続する。
<p>次年度への課題 (2025年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. “グローバルなコンテストへの参加促進”に向けたサポートの提供 2. 教育カリキュラムではカバー不可能な範囲対象のセミナー、レクチャーの企画実施 3. 大学のオープンキャンパスへの参加継続 4. 海外留学への機会紹介 5. 海外事務所の活用促進と経費有効活用

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知的財産の権利化の推進 特許、実用新案、意匠、商標等の知的財産権について教職員の意識を高め、高等教育機関としての知的活動を推進する。 2. 知的財産の権利更新及び保護管理 所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権の更新及び保護管理を行う。 3. 知的財産の活用 文化学園の諸活動において、知的財産の活用についてのサポートを行う。 4. 他者の知的財産権を侵害する行為の防止 他者の著作物の無断使用や模倣等、知的財産権の侵害にあたる行為を防止するため、教職員への啓発、そして教職員から学生への教育指導と繋がる周知活動を推進する。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知的財産の権利化を推進するため、以下の活動を行った。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 特許出願を検討している教職員の個別相談に対応した。その際、特許出願に向けて研究活動における注意点を伝達した。 (2) 染色方法に関する職務発明について、特許抵触／登録可能性調査を特許事務所に依頼する等、特許出願の準備を行った。 2. 以下の権利更新を行った。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 特許第 4198152 号「模擬皮膚装置およびそれを用いた特性評価方法」 (2) 特許第 5416353 号「染色方法およびその装置」 3. 知的財産活用のサポートとして、以下の活動を行った。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業目的公衆送信補償金制度について、利用申請を行った。 (2) 授業における著作物の利用について、学内の個別相談に対応した。 4. 知的財産権侵害を防止するため、以下の啓発活動及び周知活動を行った。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 知的財産に係る研修会やセミナーの開催情報を、学内に発信し提供をした。 (2) 知的財産に係る学内の個別相談に対し、適切に対応した。 (3) 知財センター運営委員会において、洋服等のリメイク作品についての法的注意点を共有した。また、運営委員より他者の知的財産権を侵害する恐れがある学内の事例が報告されたことから、作品の制作や展示において教職員が注意すべき点について議論し、共有を図った。 <p>以上のことから、2024 年度の全ての課題に取り組み、文化学園知財センターの役割を果たしたと評価できる。</p>
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知的財産の権利化の推進 特許、実用新案、意匠、商標等の知的財産権について教職員の意識を高め、高等教育機関としての知的活動を推進する。 2. 知的財産の権利更新及び保護管理 所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権の更新及び保護管理を行う。 3. 知的財産の活用 文化学園の諸活動において、知的財産の活用についてのサポートを行う。 4. 他者の知的財産権を侵害する行為の防止 他者の著作物の無断使用や模倣等、知的財産権の侵害にあたる行為を防止するため、教職員への啓発、そして教職員から学生への教育指導と繋がる周知活動を推進する。

■検討機関名：文化学園知財センター

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月17日	文化学園知財センター小委員会 画像生成AIの使用による著作権侵害の防止について
2024年4月18日	文化学園知財センター小委員会 文化学園服飾博物館編著の書籍に掲載された画像を使用した、他大学附属中学校の入学試験問題について、二次利用の許諾を検討
2024年4月25日	文化学園知財センター小委員会 アパレル企業よりご提供いただいた経年在庫商品の取扱いについて、演習等での利用時及びリメイク作品制作時における知的財産権侵害のリスクを検討
2024年8月20日	文化学園知財センター小委員会 文化学園の教職員による著作物への、転載許可願について
2024年8月29日	文化学園知財センター運営委員会 1. 報告 (1) 特願 2021-055466「救急服下衣および救急服下衣の動作快適性の改善方法」の拒絶理由通知について
2024年10月24日	文化学園知財センター運営委員会 1. 特許出願審議 (1) 染色方法に関する職務発明
2024年11月8日	文化学園知財センター小委員会 文化学園大学教科書に掲載された図像の著作権について
2024年11月11日	文化学園知財センター小委員会 産学共同研究の成果を活用した商品のPRにおける大学名の使用について
2025年3月6日	文化学園知財センター運営委員会 1. 知財センター所長挨拶 2. 2024年度活動報告 (1) 権利化活動 (2) 知的財産の権利更新 (3) 授業目的公衆送信補償金制度 (4) その他 3. 商標第5773805号「CREATORS TOKYO」更新の可否検討 4. 事例紹介等 (1) 授業目的公衆送信補償金の受領について (2) 洋服等のリメイクについて

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業生対応イベント実施と、企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の再検討（企業・卒業生対応グループ） 2. 地域と連携した活動の計画と実践（地域対応グループ） 3. 環境や社会に配慮した教育の実践（社会環境対応グループ） 4. AP 長期学外学修プログラム事業の計画と実施（AP 事業対応グループ） 5. 産学連携及び渋谷区との連携協定（S-SAP）事業の計画と実施（産学連携・S-SAP 対応グループ） 6. ファッションデジタル分野の研究の計画と実施（ファッションデジタル対応グループ）
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業・卒業生対応グループ：卒業生対応イベント事業(BUNKA 会)としてステンシル体験イベントを文化祭期間(11月3日)に実施した。参加者の6割が本学卒業生であり、卒業生の来校機会を創出することができた。また参加者の9割から「非常に満足」との高い評価を得た。 2. 地域対応グループ：山梨県笛吹市での地域連携事業を本格スタートとし、コラボレーション科目「シャイン研修 in 甲州」を開講し、笛吹市との官学連携で笛吹市石和温泉郷の魅力発信に取り組んだ。長野県飯山地域連携では、飯山でのコラボレーション科目「学んで発信！ふるさとプロデュース 2024」を実施した。 3. 社会環境対応グループ：東京ビックサイトで開催された「エコプロ 2024」（2024年12月4日～6日）に出展した。本展示はコラボレーション科目「エコとファッションについて学ぶ」の一環で行っており教員と履修者の当番や学生企画ワークショップを行った。3日間を通じ、6.3万人の来場があり、本学ブースにも多数の方に関心をもってもらい取組みを紹介できた。 4. AP 事業対応グループ：海外3つ、国内8つのプログラムを実施した。海外プログラムは、渡航、滞在費用及び現地物価高騰により費用が高額となっており課題である。 5. 産学連携・S-SAP 対応グループ：S-SAP（シブヤ・ソーシャルアクション・パートナー）協定に基づき、国際文化学部国際文化・観光学科3年生が、「プロジェクトセミナーⅡ」の授業として、渋谷区の地域課題の解決に向けた調査や企画提案、実践を行った。2025年1月29日に渋谷区役所において渋谷区長はじめ関係者に対して成果報告会を行った。 6. ファッションデジタル対応グループ(BFDA)：全学FD・SD研修会において「画像生成AIのデザインへの活用および事例」と題してBFDA教員2人が講演し、これまでの研究成果を広く教職員に報告することができた。
<p>次年度への 課 題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業生対応イベント実施と、企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の再検討（企業・卒業生対応グループ） 2. 地域と連携した活動の計画と実践（地域対応グループ） 3. 環境や社会に配慮した教育の実践（社会環境対応グループ） 4. AP 長期学外学修プログラム事業の計画と実施（AP 事業対応グループ） 5. 産学連携及び渋谷区との連携協定（S-SAP）事業の計画と実施（産学連携・S-SAP 対応グループ） 6. ファッションデジタル分野の研究の計画と実施（ファッションデジタル対応グループ） 7. 全体として、業務のスリム化や組織・事業の見直しを図り、担当教員が本来業務に専念する時間を増やすこと、それに伴い経費の削減を含む有効活用を実現することを目指す。

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月19日	2024年度第1回USR委員会 議題1. 2024年度USR推進室体制について

共同研究拠点

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学园内公募型共同研究及び若手教員研究を中心とした研究事業の継続推進 2. 専門性を生かした附属研究所の研究推進と情報発信 3. 文化ファッション研究機構の外部共同研究員との交流促進
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024 年度予定していた研究事業は、以下のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学园内公募型共同研究 2024 年度公募内容を見直し、応募の促進を図った。その結果、1 件の応募があったが、応募者が学外の研究助成に応募することとなり、取下げとなった。本研究助成は研究の促進と成果公表をすることに加え、科学研究費助成事業等への応募に繋がることを狙いとしており、今回の取下げは、本研究助成の事業が学外の研究助成に応募する切っ掛けとなることを示した。 (2) 若手研究者への支援体制 学園各校の若手教員の育成を目的に、若手教員研究への奨励金の事業を実施した。2024 年度は研究助成 3 件の応募に対して、本機構の研究企画委員の助言とともに研究費を交付し、研究を支援した。また、2023 年度同奨励金の研究助成 4 件の成果発表会を行う際にも、研究企画委員が助言し、若手研究者の研究力向上を図った。奨励金交付者には、文化学園大学主催の研究倫理研修会及びコンプライアンス研修会の受講を義務付け、また、研究・調査における倫理面については、相談を受け付けた。 2. 本機構運営委員会においては、学园内附属研究所 5 研究所（文化・服装形態機能研究所、文化・衣環境学研究所、文化・住環境学研究所、文化・ファッションテキスタイル研究所、和装文化研究所）が活動報告を行って情報を共有し、研究推進について議論した。2024 年度は外部委員 1 人を新委員として迎え、有益なご意見をいただき、2025 年度の本機構の運営方針を確認できた。 3. 2025 年度が共同研究員の更新年度となることから、共同研究員に「活動概況に関するアンケート」を行い、研究者の交流状況等を確認し、今後の研究支援について検討した。その結果、これまでの共同利用中心の支援体制から、各研究者の研究分野・テーマ等の情報を共有し、新たな研究分野の創成に寄与できる支援体制へシフトすることとした。 <p>以上のことから、2024 年度の課題について概ね達成できた。</p>
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学园内公募型共同研究への研究助成及び若手教員の研究への奨励金 2. 服飾文化に関する講演会等の開催企画の調整 3. 共同研究員の図書館、博物館、ファッションリソースセンターなどの研究施設利用による服飾文化研究の支援

■検討機関名：文化ファッション研究機構

開催年月日	会議等の開催記録
2024年 7月 24日	<p>1. 2024年度 第1回研究企画委員会</p> <p>(1) 新委員の紹介</p> <p>(2) 第13回若手教員研究奨励金成果発表会の日程等について 開催日時・形式の確認及び司会進行担当の決定、アドバイザーの決定 成果報告書の様式の確認</p> <p>(3) 2025年度若手教員研究奨励金の募集について 応募要領及び申請書様式の確認</p> <p>(4) 2025年度学園内公募型共同研究の募集について 公募要領及び申請書様式の確認</p>
2024年 10月 18日	<p>1. 第3回 文化ファッション研究機構講演会 講師：文化・住環境学研究所所長 形式：オンライン 演題：文化・住環境学研究所の活動 ～ 共同して研究する場の構築 ～</p>
2025年 2月 14日	<p>1. 2024年度 第2回研究企画委員会</p> <p>(1) 2025年度若手教員研究奨励金交付者の選考</p> <p>(2) 学園内公募型共同研究 2025年度交付課題の選考、2023年度終了報告（成果発表、報告書提出方法・期限等の確認）</p> <p>(3) 共同研究員の更新について 更新年の変更を検討</p>
2025年 3月 7日	<p>1. 2024年度 第1回運営委員会</p> <p>(1) 2024年度 事業報告 文化・服装形態機能研究所、文化・住環境学研究所、文化・ファッションテキスタイル研究所、和装文化研究所、文化・衣環境学研究所、文化ファッション研究機構の事業報告及び2024年度共同研究員の新規登録者の報告</p> <p>(2) 2025年度 文化ファッション研究機構事業計画 学園内公募型共同研究及び若手教員研究奨励金の取組みを推進 服飾文化に関する講演会を継続（講師：文化・衣環境学研究所所長、10月開催予定） 外部共同研究員との交流機会の提供</p> <p>(3) 2025年度 若手教員研究奨励金の交付者について 申請者の審査結果報告及び交付者の決定</p> <p>(4) 2025年度 学園内公募型共同研究の採択課題について 申請課題の審査結果報告及び交付課題の決定</p> <p>(5) 共同研究員について 研究企画委員会からの更新年の見直し（6年から3年毎の更新に変更）について承認。また、共同利用を中心とした活動から研究者の交流の場としての取り組むことを確認。</p>

附 属 研 究 所

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化・衣環境学研究所「学内研究プロジェクト助成金」について、応募数の増加につながる応募要領を検討し、学内の研究活動の活性化を図る。 2. 研究成果について、学内外での公表を継続して行い、本学の知的資源の社会発信を図る。 3. 衣環境に関連した勉強会・講演会等の開催により、情報の発信と交流の場づくりを推進し、学内研究支援を行う。 4. 保有する研究設備・機器の更新及び新規設備の購入を計画的に行うため、科学研究費助成事業への申請及び共同研究・委託研究による外部資金の獲得を進める。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024 年度「学内研究プロジェクト助成金」の実施により、文化学園大学に所属する教員が行う衣環境学に関する研究活動の推進を図った。2024 年度の公募には 3 件の申請があり、審査の上、全 3 件を承認・採択し、共同研究が実施された。2025 年度の「学内研究プロジェクト助成金」については 11 月に公募を行い、4 件の申請があり、審査の上、全 4 件を承認・採択した。 2. 2023 年度に採択した学内研究プロジェクト 3 件において、学外での学会発表 2 件、学内研究発表・交流会で 1 件の発表が行われ、研究成果の公表が定着した。また、1 件については特許出願申請準備中である。 3. 文化・衣環境学研究所講演会「大学における教育・研究活動と社会との接点—いかにして「面白さ」を共有するか—」（演者：東京農工大学大学院工学研究院応用化学部門教授・繊維学会元会長 荻野賢司氏）を開催し、情報発信による学内研究支援を行った。教職員、大学院生、計 30 人が参加し、活発な質疑応答がなされた。 4. 保有する研究設備を使用して科学研究費助成事業（基盤研究（C））の共同研究を 2 件実施し、研究と教育への貢献を行った。これらの結果を今後の外部資金獲得へと繋げていく。 <p>以上、2024 年度の課題に対して、80%を実行できた。</p>
<p>次年度への 課 題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化・衣環境学研究所「学内研究プロジェクト助成金」について、応募数増加につながる方策を検討し、学内の研究活動の活性化を図る。 2. 研究成果について、学内外での公表を継続して行い、本学の知的資源の社会発信を図る。 3. 衣環境に関連した講演会等の開催により、情報の発信と交流の場づくりを推進し、学内研究支援を行う。 4. 保有する研究設備・機器の更新及び新規設備の購入を計画的に行うため、科学研究費助成事業への申請及び共同研究・委託研究による外部資金の獲得を進める。

■検討機関名：文化・衣環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
2024年4月1日	2024年度「学内研究プロジェクト助成金」公募への申請3件について、研究代表者へ採択を通知
2024年10月22日	第1回運営会議 (1) 2025年度「学内研究プロジェクト助成金」の公募内容について検討 (2) 「学内研究プロジェクト助成金」成果報告書について検討 (3) 2024年度文化・衣環境学研究所講演会について検討 (4) 文化・衣環境学研究所の活動拡大について検討 以上4件を協議
2024年11月12日	文化学園大学教授会にて、2025年度「学内研究プロジェクト助成金」の公募について周知
2025年3月4日	文化学園大学教授会にて、2024年度文化・衣環境学研究所講演会について周知
2025年3月5日	2024年度文化・衣環境学研究所講演会（オンライン形式） 講演者：荻野 賢司氏（東京農工大学大学院工学研究院応用化学部門教授・繊維学会元会長） 講演タイトル：「大学における教育・研究活動と社会との接点—いかにして「面白さ」を共有するか—」
2025年3月5日	第2回運営会議 (1) 2025年度「学内研究プロジェクト助成金」の申請4件を審査し、4件を採択 (2) 「学内研究プロジェクト助成金」研究成果の蓄積に向け、報告書様式について検討 (3) 「学内研究プロジェクト助成金」の応募数増加の方策を検討 (4) 文化・衣環境学研究所の本学教育研究への更なる寄与について検討 以上4件を協議

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共同研究の推進 2. 参画教員の拡大 3. 若手教員の研究活動の支援 4. 所報「しつらい Vol. 10」の見直し、及び「Vol. 11」への準備
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2018 年度から公募範囲を全学として、下記の 3 カテゴリーに分けて公募した。 <ul style="list-style-type: none"> < I. 共同研究（教材開発を含む）>：学内外の複数人で行う共同研究 < II. 共同制作（教材開発を含む）>：学内外の複数人で行う共同制作 < III. 若手による研究・制作>：40 歳未満の教員（助手含む）が代表者で行う共同研究・制作 <p>その結果、研究所運営会議において下記の 10 件の研究が採択された。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域資源の活用とアート・デザインプロジェクトによる交流拠点づくり< II > ②アニメーションの授業、ワークショップの課題開発 < I > ③戦後日本における建築文化の創造過程とその背景に関する研究 < I > ④アナログ媒体のデジタル化と公共アーカイブ構築に関する研究< I > ⑤3DCG 技術を使用したファッションデザインのためのツール開発・作品製作VI< II > ⑥産学連携による東京クリスマスマーケットにおける装飾とイルミネーションの実践的教育の研究< II > ⑦スコットランド・タータン登記所への日本国内登録事例、および登録を目的としたチェック柄の制作< III > ⑧大規模マンションにおける共用空間の利用とコミュニティ活動の経年的変化に関する研究 < I > ⑨長野県須坂市における古民家再生プロジェクトに関する研究 < II > ⑩国宝重要文化財建造物における彩色技術と手法に関する研究 < I > <p>上記のうち、①は採択後に他の助成金事業が採択となったため取り下げ申請があり、⑥は連携先の企業との都合により中止となったが、他の 8 件については研究が実施できたことは評価できる。これらの研究については 2025 年度以降の学内研究発表・交流会のほか、学会発表や一般メディアを通じて広く社会に対して公表する予定である。</p> 2. 上記研究テーマのうち実施できた②③⑦⑧⑨の 5 件は学外者も参画する共同研究であり、当初の目標を達成できたことは評価できる。 3. 上記研究テーマのうち、⑦は若手教員が代表者として行われた共同研究であり、当初の目標を達成できたことは評価できる。 4. 2024 年度は所報「しつらい Vol. 10」の見直しを行い、「しつらい Vol. 11」の発行に向けての準備を行い、予定通り 2025 年度に「しつらい Vol. 11」を発行するべく作業を進めたことは評価できる。
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共同研究の推進 2. 参画教員の拡大 3. 若手教員の研究活動の支援 4. 所報「しつらい Vol. 11」の発行

■検討機関名：文化・住環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
2024年10月2日	1. 2025年度 共同研究の公募書類の確認 2. 「しつらい Vol. 11」の発行について 3. その他
2024年11月15日	1. 2025年度 共同研究の公募申請の審議 2. 2025年度 研究所の事業計画の審議 3. その他
2025年3月21日	1. 2024年度 共同研究の実施報告 2. 2024年度 事業報告 3. 2025年度 事業計画 4. その他

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」「コラボレーション科目」をはじめとする授業の運営を継続・実施する。また、和装関連科目の充実を図る。 2. ゆかたウィーク、勝手にキモノの日、着付教室、研究会などのイベントを開催する。 3. 外部との連携強化を図る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次世代きもの和音デザインコンペを継続する。 (2) (株)三松とのコラボ・ツイッターを継続・展開する。 4. 共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究課題の公募を再開するための準備をする。 (2) 学園内のファッション資料のアーカイブ化を推進する。文化学園ファッションリソースセンターの資料、和装文化研究所の資料、文化・ファッションテキスタイル研究所の資料のデータ化を進める。また、服装設計研究室の資料整理についても協力する。 (3) 2019 年度末に中止となった文化服装学院の教員によるセミナーを開催する。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」「和装文化演習A」「和装文化演習B」を運営した。コラボレーション科目では2023 年度に続き「タイの学生とファッションを学ぼう 2024」をタイ・ランシット大学の学生を迎えて実施することができた。2025 年度以降も継続的に実施する予定である。また文化服装学院の特別講義・短期研修の浴衣の着付け・文化外国語専門学校の特別講義も実施した。「和装Ⅱ」は履修登録者が少なく、非常勤講師にご担当いただいているため2024 年度は開講できなかった。時間割を検討しつつ、もう1 年様子を見る。 2. イベントもほぼ通常通りに開催した。 ゆかたウィーク (2024 年7 月16 日～7 月19 日)・勝手にキモノの日 (2024 年11 月27 日) に加え、新たに「お母さまのための振袖講座」(2024 年9 月14 日、21 日、28 日) を開催した。参加者は6 人であった。「着付け教室」は随時希望者に実施した。 3. 外部との連携についてはきものブレインとの「デザインコンペ」を復活開催した。2 月に入選者2 人を決定した。 4. 共同研究の推進については(2)のみを実施することができた。(1)(3)については2025 年度以降の課題とする。 <p>2024 年度の課題については概ね達成できた。</p>
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」「コラボレーション科目」をはじめとする授業の運営を継続・実施する。 2. 和装関連科目の充実を図る。カリキュラム変更での新たな科目の検証をする。 3. ゆかたウィーク、勝手にキモノの日、着付教室、研究会などのイベントを開催する。 4. 外部との連携強化を図る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次世代きもの和音デザインコンペを継続する。 (2) (株)三松とのコラボ・ツイッターを継続・展開する。 5. 共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究課題の公募を再開するための準備をする。 (2) 学園内のファッション資料のアーカイブ化を推進する。文化学園ファッションリソースセンターの資料、和装文化研究所の資料、文化・ファッションテキスタイル研究所の資料のデータ化を進める。また、服装設計研究室の資料整理についても協力する。 (3) 2019 年度末に中止となった文化服装学院の教員によるセミナーを開催する。

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究所が永年にわたって開発してきたテキスタイルのデータ（糸種・織度・密度・織組織等）の画像によるデジタル資料化及び伝統織物の製作技術などのデジタル資料化を推進する。 2. 独自テキスタイルの試作及び開発を 30 種類目指す。 3. デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。 4. テキスタイル業界を活性化するための指導を実施する。 5. テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義を実施する。 6. 学生の卒業制作・ショー作品制作などのためのテキスタイル作りを推進する。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. アナログテキスタイルデータのデジタル化のために、書画カメラによる撮影及び画像データの入力管理を推進した。 2. 経糸に綿 40/2 の糸を使用した 4 枚順通し×4 縞の引込架物を中心として、経浮きカット生地や柄ずれ生地及び変形ブロック生地や多重織生地等を 30 種以上試作開発した。 3. デザイナーブランドと協働して開発した「藍染デニム風テキスタイル」や「綿リプレコイル雨柄」のテキスタイルが、春夏と秋冬の展示会に使用され、プレゼンテーションや展示会で高評価を得た。 4. 八王子産地織物業者に織物生産工程である糸繰・整経などの準備工程作業について指導した。ライフスタイル提案型ブランドの社員教育の一環として、テキスタイルの企画から最終仕上げまでの工程説明や機器見学を実施した。 5. 文化学園大学をはじめ文化学園の教職員や学生の見学・研修を受け入れ、テキスタイルの一般知識の習得や生産現場におけるテキスタイル作りを理解してもらうことが出来た。ファッションビジネス学会や繊維学会などの研修を実施した。 6. 文化学園大学をはじめ文化学園の学生や教職員の卒業制作やコンテスト制作及び研究作品制作のためのテキスタイルを製作した。
<p>次年度への 課 題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究所が永年にわたって開発してきたテキスタイルデータ（糸の種類・太さ・密度、織組織等）の画像によるデジタル資料化を推進する。 2. 独自テキスタイルの試作・開発を約 30 種類目指す。 3. デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。 4. テキスタイル業界を活性化するための指導を実施する。 5. テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義を実施する。 6. 文化学園の学生の卒業制作・ショー作品制作・コンテスト作品制作及び教職員の研究作品制作のためのテキスタイル作りを推進する。

開催年月日	会議等の開催記録
2025 年 2 月 27 日	<p>第 1 回文化・ファッションテキスタイル研究所運営委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 来所者の件数・人数等について説明。 2. 産学連携の企業名・内容等について説明。 3. 文化学園大学をはじめ文化学園の学生の見学・研修や卒業制作等について説明。 4. 研究所独自の開発について説明。 5. 研究所保有のアナログデータのデジタル化について説明。

事 務 局

■検討組織名：全学 SD 委員会

報告者：円谷 葉子

本年度の課題 (2024 年度)	<ol style="list-style-type: none"> 引き続き退学者数等の経緯と現状を分析し、教員と連携しつつ、学生支援の環境が整えられるよう検討する。 学外の研修会等に積極的に参加し、他大学の状況等を収集し、学生支援体制の充実を図る。
取組の結果と 点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> 最終的な退学者（除籍含）は 150 人であった。教員と連携しつつ対応してきたが、2024 年度は 4.6%（2023 年度は 4.3%）の退学率であった。 引き続き、教員、事務局と連携し、学生支援の環境を整えたい。 職員は積極的に学外機関による研修会に参加し、他大学等の様子について状況の収集に努めた。結果は報告書にまとめて共有した。
次年度への 課題 (2025 年度)	<ol style="list-style-type: none"> 引き続き退学者数等の経緯と現状を分析し、教員と連携しつつ、学生支援の環境が整えられるよう検討する。 学外の研修会等に積極的に参加し、他大学の状況等を収集し、学生支援体制の充実を図る。

開催年月日	会議等の開催記録
2024 年 9 月 30 日	<ol style="list-style-type: none"> 2024 年度全学 SD 研修会について 2023 年度と同様の方法で開催する（大学事務局と学園就職支援室就職支援一課合同でグループ編成し、11 月～3 月までの期間の中でグループごとに開催日を決めて討議を行う） 学外主催研修会の報告書について 2024 年度に参加した学外主催研修会の報告書を作成する。報告書提出は 3 月末とする。
2024 年 11 月 25 日 ～2025 年 3 月末	<p>SD 研修会の実施</p> <p>大学事務局と学園就職支援室就職支援一課の職員で、部署を越えて 6 つのグループ編成として討議を行った。</p> <p>討議テーマ「全学 SD 委員会として提案する、学生支援、広報体制など」</p> <p>①学生の満足度向上について ②留学生支援について ③本学の広報体制について</p> <p>討議する期間は 2024 年 11 月 25 日～2025 年 3 月末まで。討議する日時は各グループで都合の良い日とし、討議時間は 90 分～100 分を目安とする。グループはランダムに決定。討議後、グループごとに報告書を作成し、3 月 28 日までに委員会書記へ提出（3 月末に討議を行った場合は 4 月末までに提出）することとした。</p> <p>結果、36 人中 35 人（参加率 97%）が参加し、討議を行い、討議内容については「SD 研修会報告書」としてグループごとにまとめた。討議内容をまとめて共有することにより、他のグループの討議の様子を知ることができて、有益であった。</p>

学 园 本 部

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革(継続) 2. 改正私立学校法に基づき、寄附行為の変更を行う。 3. 多様な働き方を実現するため、学校法人の諸届、規程の改廃を行う。 4. 新・勤怠管理システムの運用を行う。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革 備品購入申請や各申請書の電子化を進め、ペーパーレス化・業務効率化を更に推進した。 2. 改正私立学校法に基づき、寄附行為の変更を行う。 (1) 改正私立学校法に基づき、より透明性のある法人運営を実現するために、臨時の理事会を 11 回実施し議論を重ねた上で、新寄附行為を作成した。 (2) 私立学校法の改正に伴う、関連規程の制定・改定・廃止を行った。 3. 多様な働き方を実現するため、学校法人の諸届、規程の改廃を行う。 各部署・各職種に応じた多様な働き方を実現するとともに、長時間労働の是正や公正な待遇確保のため、職員就業規程・職員給与規程等をはじめとした規程整備を実施した。 4. 新・勤怠管理システムの運用を行う。 新・勤怠システムを稼働させ、週報の廃止、勤務時間や休暇残日数の見える化を実現し、大幅に利便性・業務効率を向上させた。
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革(継続) 2. 新寄附行為に沿った学内運営体制を構築する。 3. 学校法人の諸届、規程の改廃を行う。

開催年月日	会議等の開催記録 (学園運営会議)
2024 年 4 月 11 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2023 年度事業報告書作成依頼について 2. 定年退職者の再雇用について
2024 年 5 月 9 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就業・給与規程等の変更について 2. 労組要求書について
2024 年 6 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024 年度定年後再雇用希望について 2. 外部相談窓口ハラスメント相談報告書について
2024 年 7 月 11 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 渋谷労働基準監督署の調査について
2024 年 9 月 12 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 通称名の使用について
2024 年 10 月 10 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人権費予算について 2. 隣地の公務員官舎の解体工事について
2024 年 11 月 14 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025 年度事業計画書作成について 2. 2025 年度 WindowsPC 入替プロジェクトについて
2024 年 12 月 5 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 嘱託・嘱託非常勤職員並びにアルバイトの契約更新について 2. 嘱託職員の人事考課の実施について 3. 36 協定 (特別条項) について 4. 労働組合執行部改選について 5. 諸会議の再編について 6. 半日有給休暇について 7. 私立学校法改正に伴う寄附行為の変更について
2025 年 1 月 9 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学園運営会議の再編について
2025 年 2 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025 年度事業計画書について 2. 備品購入申請に関する運用ルール共通化について
2025 年 3 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人事考課について

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設・設備の適切な維持管理と安全性の確保 (継続) 2. 社会変化に対応した教育環境とサステナブルキャンパス形成 (継続) 3. 多様な利用者への配慮とパブリックスペースの充実 (継続) 4. キャンパスマスタープランの策定
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設・設備の適切な維持管理と安全性確保の観点から以下の工事※を実施した。 <ol style="list-style-type: none"> (1)ABC 館 (C 館) エレベーター機械室空調設備更新工事 (予防保全・省エネルギー化) (2)ABC 館 (C 館) 11 階オープンメディアルーム空調設備更新工事 (予防保全・省エネルギー化) (3)ABC 館・D 館授業用空気圧縮機更新工事 (予防保全) (4)D 館屋上防水工事 (予防保全) (5)F 館熱源設備改修工事 (計画更新・省エネルギー化) (6)F 館 B2F・4F 空調設備改修工事 (予防保全・省エネルギー化) (7)J 館アリーナ系統ヒートポンプチラー更新工事 (予防保全・省エネルギー化) (8)遵法性確保のための各所改修工事 (遵法性と安全性の確保) <p>※キャンパス共通工事を含む。主要工事を抽出。</p> <p>全体的に施設設備更新が遅延している状況であるため、BELCA (ロングライフビル推進協会) による更新指標や建築基準法第 12 条点検を始めとする法定点検結果等を活用した「中長期整備計画」を策定し、年次的な施設・設備整備を推進した。しかし、旧校舎群 (D 館・E 館) に関しては依然として遅延傾向にあるため、今後のキャンパスマスタープラン策定による計画的な整備判断の必要性を確認した。</p> 2. 社会変化対応の教育環境とサステナブルキャンパス形成の観点から以下の工事を実施した。 <ol style="list-style-type: none"> (1) D 館・E 館・F 館温水洗浄便座新設工事 (教育環境整備) (2) 各所空調設備改修工事 (省エネルギー化) <p>旧校舎の改築(建替)計画見直しにより、蓄積していた修繕・更新工事の増加のため、教育環境整備やバリューアップに関する工事が縮小している。今後のキャンパスマスタープランの策定による計画的な整備判断の必要性を確認した。</p> 3. 多様な利用者へ配慮したパブリックスペース充実の観点から以下の工事を実施した。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 給水スタンドの設置 (パブリックスペースの充実) (2) 新都心キャンパス各所段差解消工事 (多様な利用者への配慮) <p>旧校舎の改築(建替)計画見直しにより、蓄積していた修繕・更新工事の増加のため、パブリックスペースの充実を目的とする工事が縮小している。今後のキャンパスマスタープランの策定による計画的な整備判断の必要性を確認した。</p> 4. キャンパスマスタープランの策定 <p>コンストラクション・マネジメント事業者と「キャンパスマスタープラン策定支援業務 (フェーズ 0)」契約を締結し、キャンパスの現状把握と可能性の検証、課題抽出を行った。今後、キャンパスマスタープラン策定にあたっては、上記現状把握結果に加え、設置各校のニーズや実情 (学生数推移等) を明確化することが必要であるため、施設整備に関するアンケートの実施や検討委員会の設置を検討する。</p>
<p>次年度への課題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設・設備の適切な維持管理と安全性の確保 (継続) 2. 社会変化に対応した教育環境とサステナブルキャンパス形成 (継続) 3. 多様な利用者への配慮とパブリックスペースの充実 (継続) 4. キャンパスマスタープランの策定 (継続)

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学園の財務基盤の維持・向上のための必要な施策を検討・実施する。 2. 学園財源の多様化に資する施策を継続して検討・実施する。 3. 法令・制度改正への適切な対応と学園内部の理解促進に資する情報提供を行う。 4. 学園業務の効率化に資する施策（主として経理業務に係るペーパーレスの推進、キャッシュレスの推進、各種経費支払方法の改善等）を検討・実施する。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学園の財務基盤の維持・向上のための必要な施策を検討・実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・減価償却引当特定資産として2024年度10億円を積み立て、特定資産の強靱化を図った。 ・学園方針に基づき、学園本部協働のプロジェクトチームにより、老朽化等の理由で今後の使用目的の立たなくなった資産（杉並国際学生会館、小平第二国際学生会館、越谷倉庫）の整理・売却を行い、維持管理費用を削減するとともに、学園の財務体質の強化を図った。 ・新宿文化クイントビルの不動産賃貸借事業に関して、住友不動産（受託事業者）とともにテナント・店舗の入居の充実を行い、収益事業収入の増加を図った。 ・出資会社との資本関係の見直しを行った。 2. 学園財源の多様化に資する施策を継続して検討・実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校会計において、資金運用規程に基づき、特定資産の新規繰入及び組換（主として債権及び銀行預金商品）、また手元資金の一部で合同運用指定金銭信託を行うことを通して、資金運用利率の向上及び資金運用収入の増加を図った。 ・収益事業会計においては主にビル事業において保有する定期預金の範囲内において、金融資産の一部組換（主として債権及び銀行預金商品）を行うことを通して、資金運用利率の向上及び資金運用収入の増加を図った。 ・財務データから見た諸学校法人の状況及び本学園の客観的な評価を把握するため、また今後の方針策定の参考とするため、金融機関から積極的な情報収集を行った。 3. 法令・制度改正への適切な対応と学園内部の理解促進に資する情報提供を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・取引先との適正な関係構築と法令遵守の徹底を図るため、「優越的地位の濫用」及び「下請法」に関する周知文書を作成・配付し、関係教職員への啓発を行った。 4. 学園業務の効率化に資する施策（主として経理業務に係るペーパーレスの推進、キャッシュレスの推進、各種経費支払方法の改善）を検討・実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学園業務の効率化に向けた取り組みとして、当期は法人クレジットカード（パーチェシングカード・コーポレートカード等）を導入し、わずかながら個人立替及び現金取扱いの削減を実現した。
<p>次年度への課題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学園の財務基盤の維持・向上のための必要な施策を検討・実施する。（特に金利上昇リスクへの対応、保有資産効率化による財務体質の強化、新宿文化クイントビルの不動産賃貸借事業の推進） 2. 学園財源の多様化に資する施策を継続して検討・実施する。 3. 法令・制度改正への適切な対応と学園内部の理解促進に資する情報提供を行う。（改正私立学校法への対応を含む） 4. 学園業務の効率化に資する施策を検討・実施する。

■検討組織名： IT 委員会

報告者：内谷 達郎

本年度の課題 (2024 年度)	<ol style="list-style-type: none"> 1. オープンメディアルーム・PC 教室等、学内各所の ICT 関連に係る、教育環境整備の支援に努める。 2. Adobe 学生ライセンスパックの展開 3. Google の容量制限に係る運用ルールの方策
取組の結果と 点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. オープンメディアルーム・PC 教室の更改を実施した。 2. Adobe 学生ライセンスパックの展開を実施した。 3. 有償版ライセンスを引き続き契約することで初期容量から約 2 倍の容量に増加させた。運用ルールに関しては議論を継続することとする。
次年度への 課 題 (2025 年度)	<ol style="list-style-type: none"> 1. オープンメディアルーム・PC 教室等、学内各所の ICT 関連に係る、教育環境整備の支援に努める。 2. 教職員、PC 教室を対象とした Windows11PC の利用を開始する。 3. PC 教室を除く学生利用 PC について検討をする。

開催年月日	会議等の開催記録
2024 年 9 月 3 日	大学 ICT 推進委員会
2025 年 2 月 4 日	大学 ICT 推進委員会

■検討機関名： ハラスメント防止委員会

報告者：内谷 達郎

<p>本年度の課題 (2024 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2023 年度 1 年間運用した結果を検証し、今後の本委員会の体制・運用について検討する。 学生及び教職員に制度を理解してもらうためのリーフレット等を作成する。 教職員全体に対しハラスメント防止への意識啓発をはかり、併せてその方法について検討する。
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2023 年度 1 年間運用した結果を検証し、今後の本委員会の体制・運用について検討する。 相談員から防止委員へ連絡が上がった際、迅速に防止委員会を開催し、方向性を確立したうえで、防止委員長が案件により適切な調査委員を任命し、問題解決及び再発防止等に努めた。 学生及び教職員に制度を理解してもらうためのリーフレット等を作成する。 リーフレットの作成は行うことができなかったが、教職員に向けては「ハラスメント問題対応フロー図」をイントラサイトに公開し、学生には学生手帳及び大学ホームページにて相談窓口をお知らせする等、文化学園のセーフティーネットの周知に努めた。 教職員全体に対しハラスメント防止への意識啓発をはかり、併せてその方法について検討する。 教職員全体に向けて委員会として研修等の実施はしていないが、制度の周知のみならず、全体への更なる意識啓発を図れるようにするとともに、相談員及び防止委員のメンタルケアについても今後は検討していく。
<p>次年度への 課題 (2025 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 防止委員及び相談員の体制について評価する。 調査員及び相談員のメンタルヘルスケアについて検討する。 教職員全体に対しハラスメント防止への意識啓発をはかる。

開催年月日	会議等の開催記録
2024 年 4 月 4 日	ハラスメント防止委員会 常任委員会 開催
2024 年 5 月 14 日	ハラスメント防止委員会 開催
2024 年 5 月 20 日	ハラスメント防止委員会 開催
2024 年 6 月 4 日	ハラスメント防止委員会 開催
2024 年 6 月 11 日	ハラスメント防止委員会 常任委員会 開催
2025 年 3 月 25 日	ハラスメント防止委員会 常任委員会 開催

附： 委員会委員一覽表
学部・学科編成
入学定員・収容定員・在籍学生数
全学自己点検・評価委員会委員名簿

2024 年度 文化学園大学委員会委員一覧表

2024 年 10 月 1 日

[常置委員会]

◎委員長 ○副委員長 △書記 (敬称略・順不同)

ブロック		教 務	学生支援	入試対策	就 職
1	服装学部 ファッションクリエイション学科	△若月 宣行	△管野 絢子	曾我 陽子 内山 竜多	梅田 悠希
2	服装学部ファッション社会学科	○熊谷 伸子	李 熙明	○北方 晴子 渡部 薫	横山 淳
3	造形学部デザイン・造形学科	山崎 裕子	○成井 美穂	◎山田 拓矢	瀬藤 貴史 藤澤 英恵
4	造形学部建築・インテリア学科	◎久木 章江	岩塚 一恵	種田 元晴	趙 晟恩
5	国際文化学部国際文化・観光学科	畠山 理恵	米井 由美	△星 圭子	小川 祐一
6	国際文化学部 国際ファッション文化学科	佐藤 綾	根本 賀奈子	加藤 淳之介	小出 恵
7	学部共通科目	西村 晋	——	岡島 奈音	中島 敬子
8	教務部、学生部、就職支援一課	山田 亜希子	山根 愛	相澤 浩子	熊谷 江理
学長 指名		二茅 みゆき	◎白井 菜穂子 菊住 彰 相澤 浩子	高野 博子 佐藤 美咲子	◎丸茂みゆき ○中西 教夫 △福島 典子

[特別委員会]

全学自己点検・評価	全学FD	研 究	紀要編集	研究倫理	研究活動不正防止	公開講座実行
◎渡邊 秀俊 ○瀬島健二郎 △北浦 肇 近藤 尚子 小林 未佳 梶田 貴子 岡林 誠士 円谷 葉子 二茅みゆき 山田亜希子	◎昼間 行雄 ○村上 剛規 △北岡 竜行 吉田 昭子 渡邊裕子(造) 込宮麻紀子 井上 昌恵 遠藤 典子 鎌倉 明香 円谷 葉子 相澤 浩子	◎嘉松 聡 ○加藤 薫 △三品 和之 井口 彰子 種田 元晴 熊谷 望 藤澤 千晶	◎曾根 里子 ○砂長谷由香 △工藤 雅人 白井菜穂子 久保田 文 渡邊裕子(服) 橋本 智徳	◎米山 雄二 ○中沢 志保 △藤澤 千晶 申 恩泳 渡邊 秀俊 柴田 早苗 近藤 尚子 昼間 行雄 佐藤真理子 円谷 葉子	◎米山 雄二 ○高橋 正樹 △藤澤 千晶 申 恩泳 渡邊 秀俊 柴田 早苗 中沢 志保 近藤 尚子 佐藤真理子 佐藤 申 菅原 貴史 円谷 葉子	◎近藤 尚子 ○栗山 丈弘 岡本 泰子 梶田 貴子 木全 秀美 関口 光子 奥村 誠一 二茅みゆき 藤澤 千晶 吉村 紅花

大学障がい学生支援	国際交流	全学SD
◎佐藤 浩信 ○北方 晴子 渡邊 秀俊 古屋 和雄 七里 真代 平野 律子 相澤 浩子 円谷 葉子	◎申 恩泳 ○渡邊 秀俊 △山田亜希子 柴田 早苗 佐藤 浩信 昼間 行雄 西村 晋 クワダ イ・チア 円谷 葉子 二茅みゆき 高橋 典子	◎円谷 葉子 ○相澤 浩子 △二茅みゆき 高野 博子 熊谷 江理

[専門委員会]

教職課程	学芸員課程	司書課程	衣料管理士課程	建築・インテリア系資格	文化・語学研修
◎白石 一徳 ○五十嵐清子 △中島 敬子 北浦 肇 鳥海 薫 森谷 直樹 栗山 丈弘 田辺里枝子	◎田中 直人 △岡島 奈音 中村 弥生	◎瀬島健二郎 △吉田 昭子	◎矢中 睦美 ○由利 素子 △松井 有子 佐藤真理子 小林 未佳 角田 薫	◎谷口久美子 ○種田 元晴 △奥村 誠一 久木 章江 曾根 里子	◎加藤 薫 ○佐藤 浩信 △米田 紀子 ジョン・デビッド・オード 小笠原清香

図書館	大学 ICT 推進
◎矢中 睦美 ○白石 一徳 野沢さおり 深田 雅子 種田 元晴 米田 紀子 橋本 智徳	◎高橋 大介 ○白井 信 △野沢さおり 柳田 佳子 栗山 丈弘 曾根 里子 村上 剛規 山川あづさ 山田亜希子

学部・学科編成 (2024年度)

文化学園大学大学院

生活環境学 研究科	被服環境学専攻 (博士後期課程)	
	被服学専攻 (博士前期課程)	アドバンストファッションデザイン専修 テキスタイルデザイン学専修 服装機能学専修 服装社会・文化専修 ファッションビジネス専修 グローバルファッション専修
	生活環境学専攻 (修士課程)	デザイン・造形学専修 建築・インテリア学専修
国際文化 研究科	国際文化専攻 (修士課程)	国際文化専修 健康心理学専修

文化学園大学

服装学部	ファッションクリエイション学科	アパレルフィールド プロデュースフィールド アドバンストフィールド
	ファッション社会学科	
造形学部	デザイン・造形学科	メディア映像クリエイションコース グラフィック・プロダクトデザインコース ジュエリー・メタルデザインコース
	建築・インテリア学科	インテリアデザインコース 建築デザインコース
国際文化学部 (2020年度生より 現代文化学部から 名称変更)	国際文化・観光学科	
	国際ファッション文化学科	スタイリスト・コーディネーターコース プロデューサー・ジャーナリストコース 映画・舞台衣装デザイナーコース

入学定員・収容定員・在籍学生数 (2024年5月1日現在)

文化学園大学大学院

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
生活環境学	被服環境学（博士後期）	2	6	5
	被服学（博士前期）	20	40	30
	生活環境学（修士）	6	12	23
国際文化	国際文化（修士）	6	12	3

文化学園大学

学部名	学科名	入学定員	収容定員	現員
服装	ファッションクリエイション	260	1120	1065
	ファッション社会	140	580	470
造形	デザイン・造形	125	495	547
	建築・インテリア	125	495	477
国際文化 (2020年度より現代文化 学部より名称変更)	国際文化・観光	60	230	189
	国際ファッション文化	140	540	494

全学自己点検・評価委員会 委員名簿 (2024年度)

委員長	渡邊 秀俊
副委員長	瀬島健二郎
書記	北浦 肇
	近藤 尚子
	小林 未佳
	梶田 貴子
	岡林 誠士
	円谷 葉子
	二茅みゆき
	山田亜希子

文 化 学 園 大 学
自己点検・評価報告書 -2024 年度-

2025 年 8 月 1 日発行

編集：文化学園大学

全学自己点検・評価委員会